
フルカラーコミック
弱みを握られた
イケメン優等生は
先生の雌になる
ひぐ
あ
あ
専用
正正正丁
中出し希望
りゆういんじ

弱みを握られたイケメン優等生は先生の雌になる



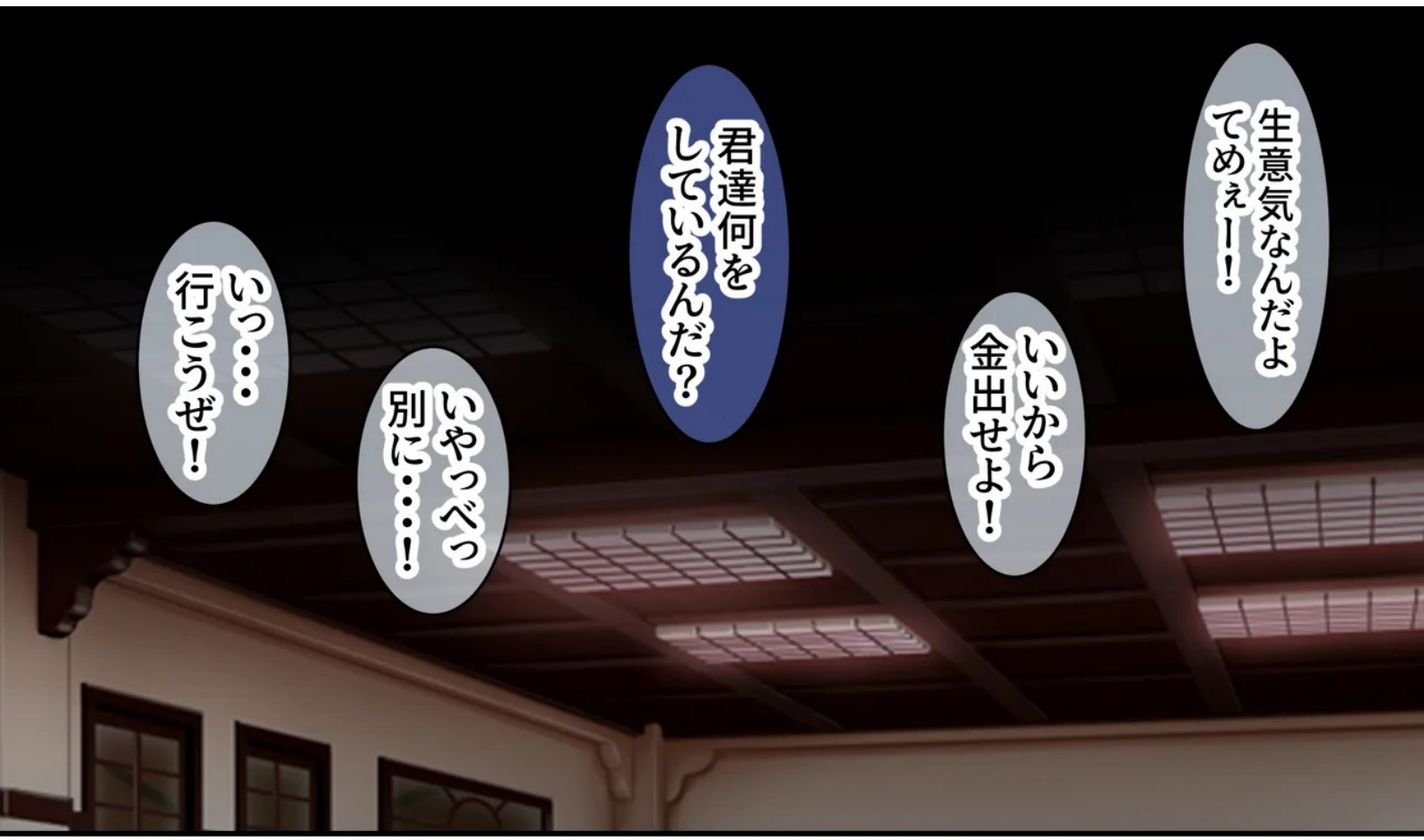


【受】一条曹馬（いちじょうそうま）
20歳　大学2年生
両親は警察関係の仕事をしており
祖母がロシア人クオーター
金持ちで成績も優秀。真面目

【攻】大滝高雄（おおたきたかお）
42歳　大学教師
あまり感情を表に出さず
生徒からは何を考えてるか
解らないと思われているが
威圧感はありほとんどの生徒に
避けられている

【プレイ内容 & 注意表現】
連続絶頂 / 中出し / 拘束 / 調教 / 雌堕ち / 道具 / ローター / 落書き / 辱め / 目隠し / わからせ / お仕置き / 言葉責め / 断面図等
※描写は男性向の為えっちシーンは受メインで画面構成をしております。
※抜きページ多めですのでえっちページ多い漫画が好きな方向けとなっております。

【仕様】フルカラーコミック
本編45ページ、おまけ別視点漫画【本編差分構成】41P
事務ページ、おまけ含む総数90ページ


生意気なんだよてめぇー！
いいから金出せよ！
君達何をしているんだ？
いやっべっ別に・・・！
いっ・・・行こうぜ！


ペコリ
先生ありがとうございました
気を付けて帰りなさい
感情を表に出す事がほとんどなく
何を考えているか解らない
だから得に人気がある先生じゃなかった
けれど・・・俺はいい人なんだと思っていた


こんな事になる前は・・・・
フー♡
フー♡


キーンコーンカーンコーン
なぁ帰りにカラオケ行こうぜ
おっいいね！一条も行かね？
ごめん・・・今日のレポートをまとめたいから寮に先帰るよ
そっかまったなー
どうせ断られるのにどうして誘ったんだよ
あいついた方が女子の参加率上がるしさワンチャン来るかもしれないと思ったんだけどな残念
まぁあいつ真面目だからな・・・
真面目で優等生・・・・それが回りの俺への印象だろう

親が警察官なのもあり
悪い事は禁止期待され
そう育てられた

遊びも恋愛もせず勉強して
優等生でいなくてはならない・・・
そのプレッシャーに時たま
押しつぶされそうになる

そんなストレスの
発散方法・・・

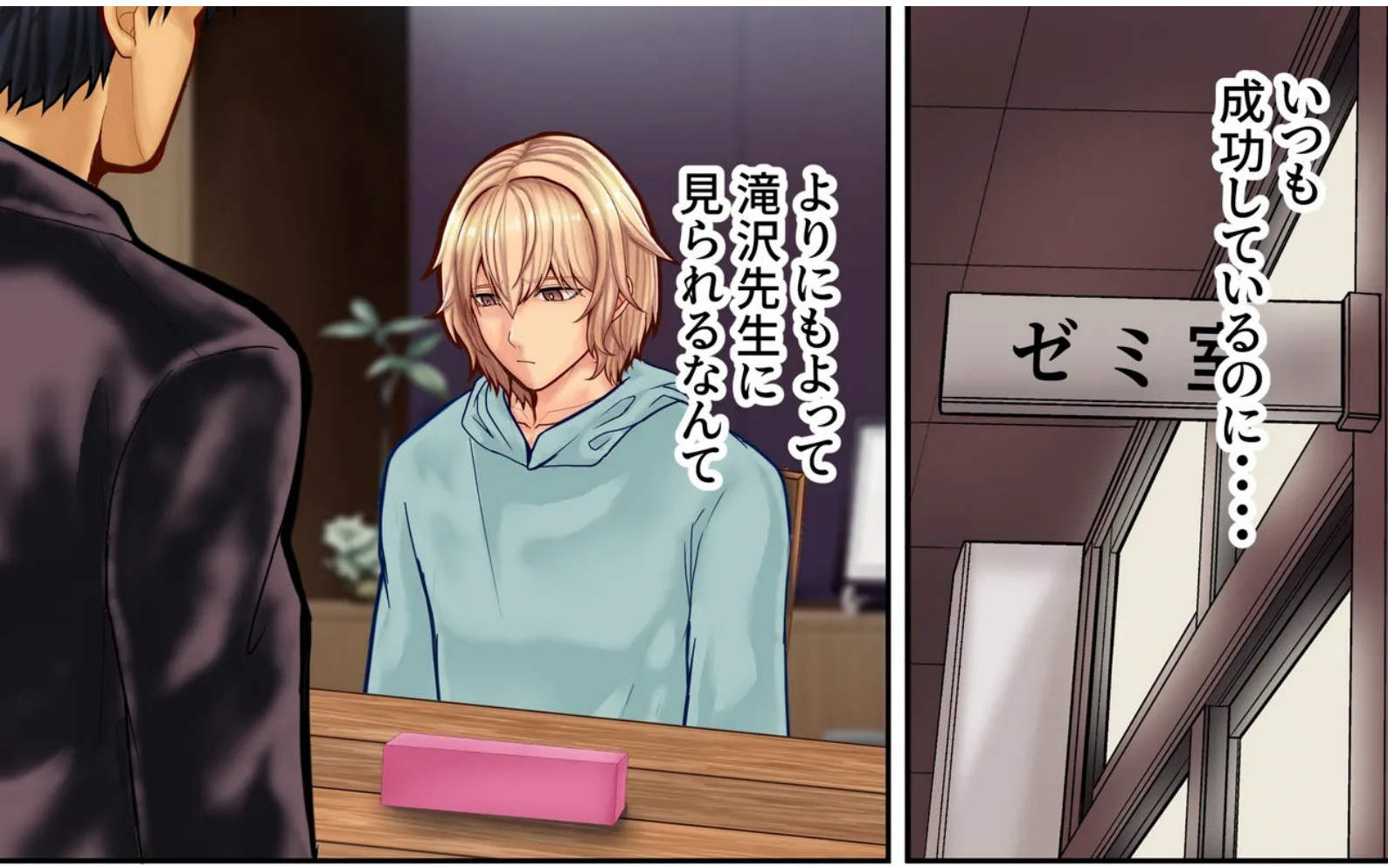
使う物ではないけれど
バレた時に一番ヤバい物を
万引きするのが一番
スッっとする

スッ

大人のおも

一条・・・

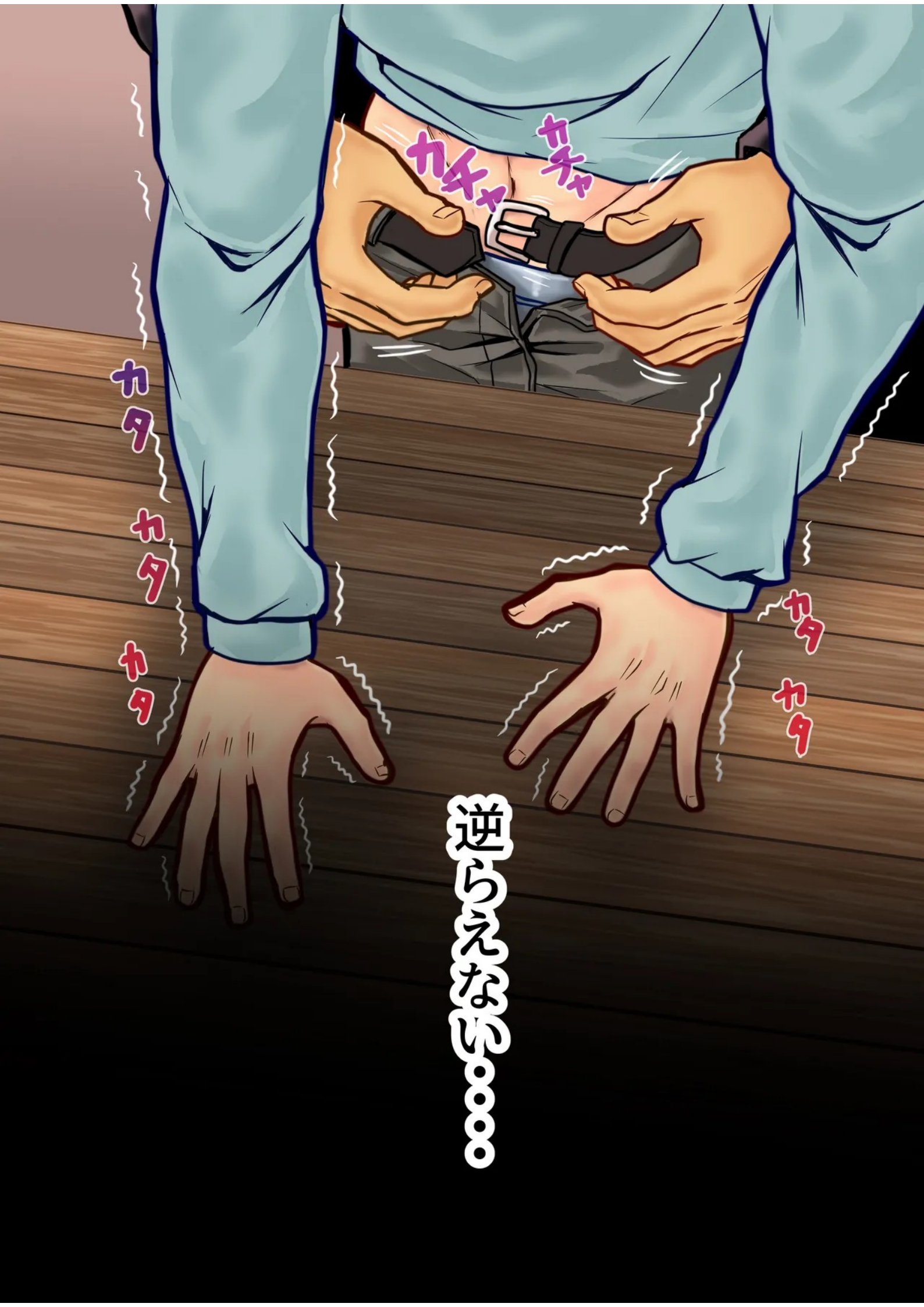
ドキッ


いつも
成功しているのに・・・・
ゼミ室
よりにもよって
滝沢先生に
見られるなんて


なるほど
コレが一条の
ストレス発散方法と
いうわけか
すみません
もうしません
大人のおもちゃ
コトッ


ところで一条
オナニーはいつした？
え？
こんなモノを
万引きして
ストレスよりも
溜まっているモノが
あるんじゃないか？
ちがっ違います
これはたまたま
手にしただけで・・・

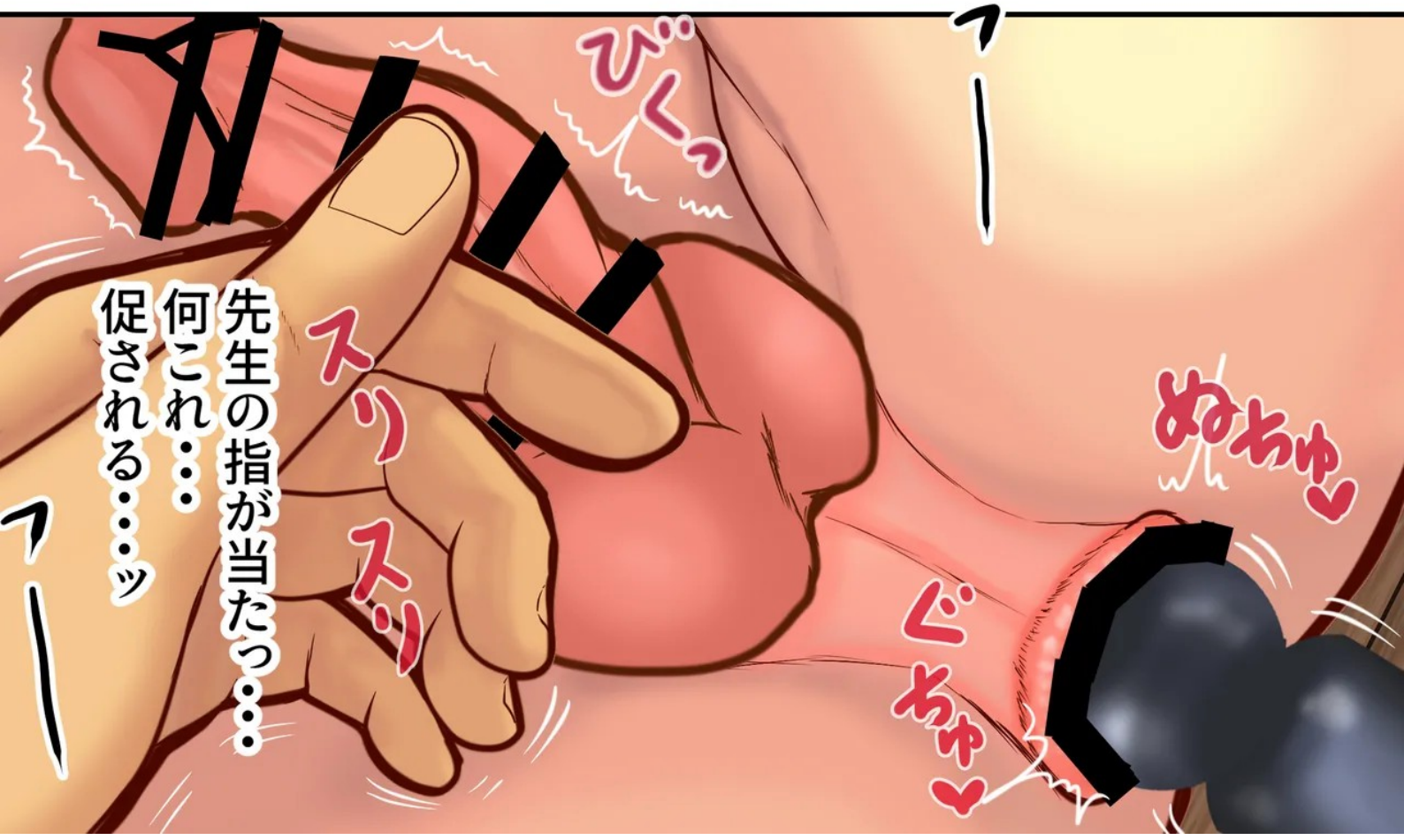

もう…
悪い事をしなくて済むように
私が発散方法を教えよう
ズッ…
ガタ
さぁ…
服を脱ぎなさい
カタ カタ
離してくださっ
ぐっ
カタ
カタ
トクン
一条の両親は確か
警察官だったな…
ポン


カチャ
カチャ
カタ
カタ
カタ
カタ
カタ
カタ
逆らえない……


・・・せ・・・
せんせ・・・
こんな事
・・・やっ
ガタッ
やめてください
なんでこんな恰好・・・
最低です・・・！
ギロ・・・
こんな玩具を
万引きした一条も
相当だと思うが？
ずいっ
そ・・・
それは・・・


しかも万引きしたのは
一つかと思えば
鞄の中にいくつか
入っていましたね
ス…
この細めのなら
処女でも
いけそうです
ちょっ…!
ちょっと待って…!
くちゅん♥
ずッ
ビクッ
一条がこんな
悪い事をしているとは
意外でしたよ…
やっやめます
もう万引き
やめます…
だから…
じわ…
ガク
悪い子には
お仕置きです
やめっ…!
ガク
ガク

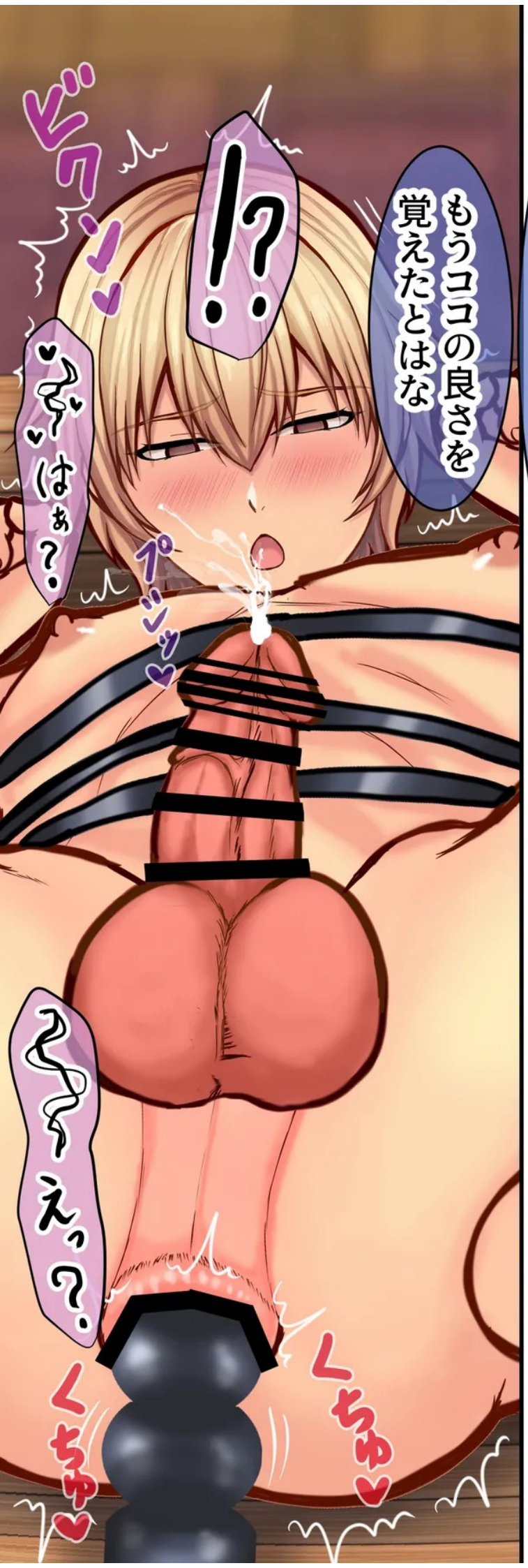

ゾワァ
ぐんっ
中に…挿って…ッ
ずぷぷぷ
ぁ…っ


びくっ
先生の指が当たっ…
何これ…
促される…ッ
スリスリ
ぬちゅ
ぐちゅ
ー
ー

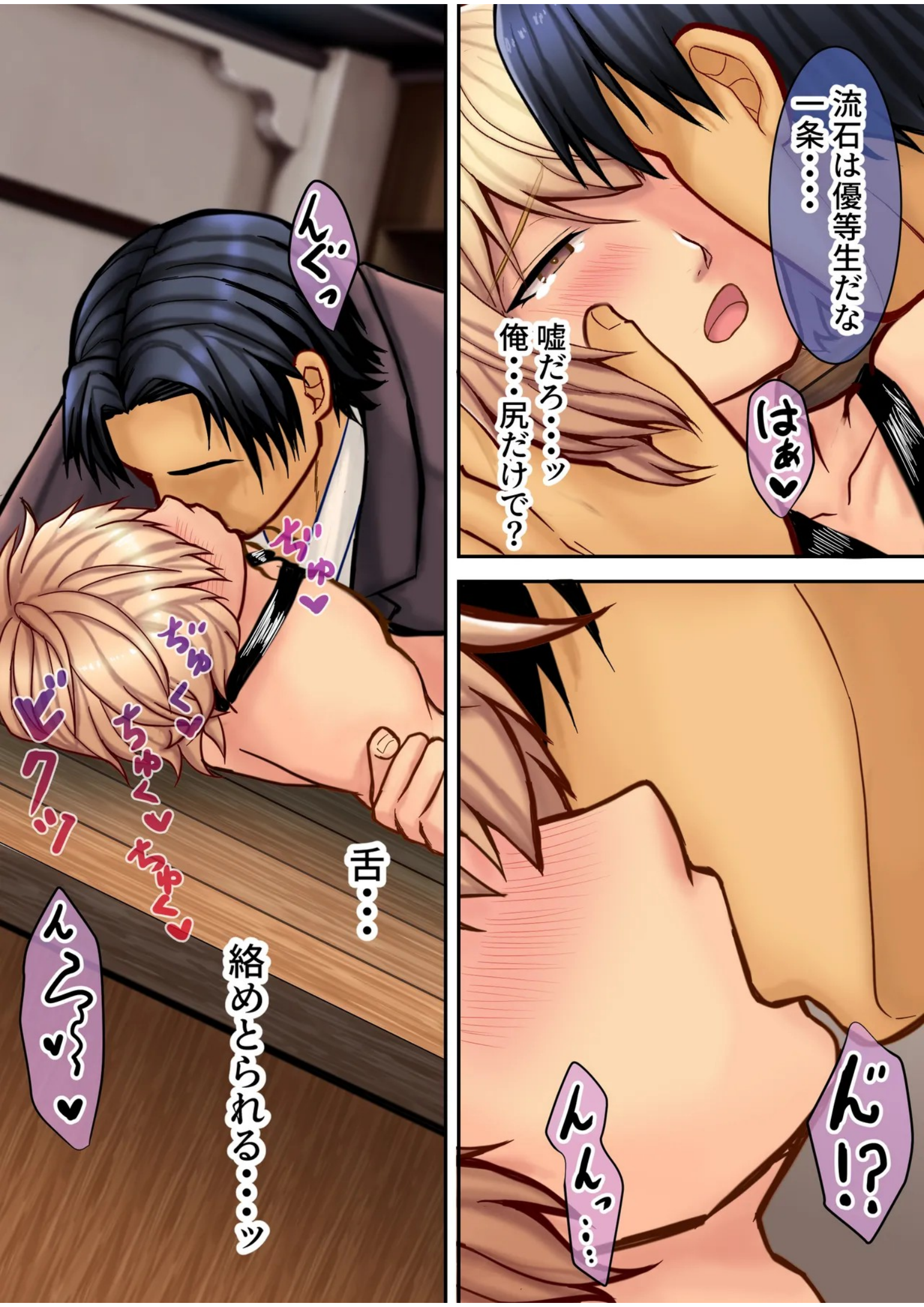

相当溜まっていたんだな
少し刺激しただけで
カウパーが溢れているぞ・・・
ツツツー
あっ・・・ッ
ピク
ピク
こんなんじゃ
もどかしいか？
びくっ
！
ピト
もっと
よくしてやる
くちゅ

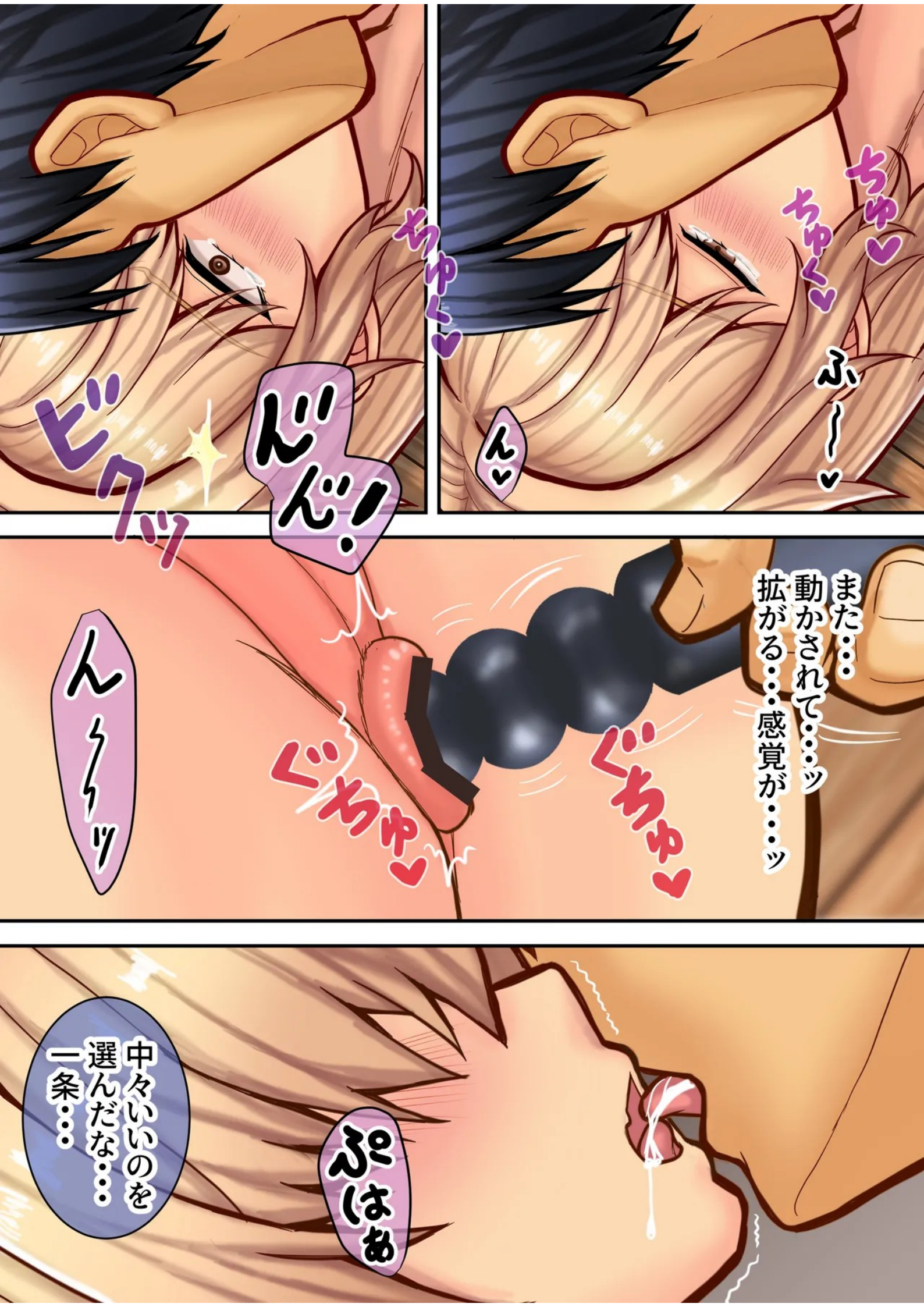

嘘だろ…そんな所…
カチッ
!?
ヴヴヴヴヴヴ
刺激が……ッ
いっやぁ
あ゛あ゛あ゛
プシッ♥
ガクーン
強すぎる……ッ
ウヴ
ウヴ
イッ…
…イくう♥
ウヴ
ウヴ
ウヴ


自分が万引きした物でイかされる気分はどうですか？
ガタッ
カハッ
強制的にイかされて・・・ッ
ウヴ ウヴッ ヴ
苦しいのに・・・ッ
うッ・・・動けない・・・ッ
びくっ
ひぃ
あっあっ♥
ごめんなさいッ
びくっ
ヴヴ ヴヴ
もうッ
じまぜんッ
ゆるしてーッ
れこッ
れいッ
やッ
びくっ
びくっ
ヴヴ ヴヴ
ヴヴ
もうでないッ


もうダメッ
じまぜんッ
ゆるじてぇ〜〜ッ
ビク♡
ビク♡
おねがいぃ〜〜ッ
もう電マやっていないが
イくのがとまらないか・・・
イぐ♡
イぐぅ♡
ひぃあ♡あ♡あぁ♡
ぬぷ♡
ぬぷ♡

ビクン♡
!?
もうココの良さを
覚えたとはな
ぷしゅッ♡
ふぇ♡はぁ?
えっ?
くちゅ♡
くちゅ♡


流石は優等生だな一条・・・
はぁ♥
嘘だろ・・・ッ俺・・・尻だけで？
んぐっ
ちゅ♥
ちゅく♥
ちゅく♥ちゅく♥
ビクッ!?
舌・・・
絡めとられる・・・ッ
んっ♥
ん!?
んっ・・・


ちゅ♥
ちゅく♥
ふ～♥
ん♥
ちゅく♥
ビクッ
ぢん！
また…
動かされて…ッ
拡がる…感覚が…ッ
ぐちゅ♥
ぐちゅ♥
ん～～ッ
ぷはぁ
中々いいのを
選んだな…
一条…


ずるるるん♥
びくっ♥
おかげで良い仕上がりだ…
やっと…終わったのか…
カチャ
カチャ
くたぁ…
はぁ
はぁ
なのに…何か…変な感じだ…
あんな所…無理矢理こじ開けられて…まだ挟まってる感覚が…


さぁ約束通り発散方法を教えてやろう…
へ？
バキ
バキ
びくん！
え？
何を驚いている？今までのはただの準備にすぎんよ

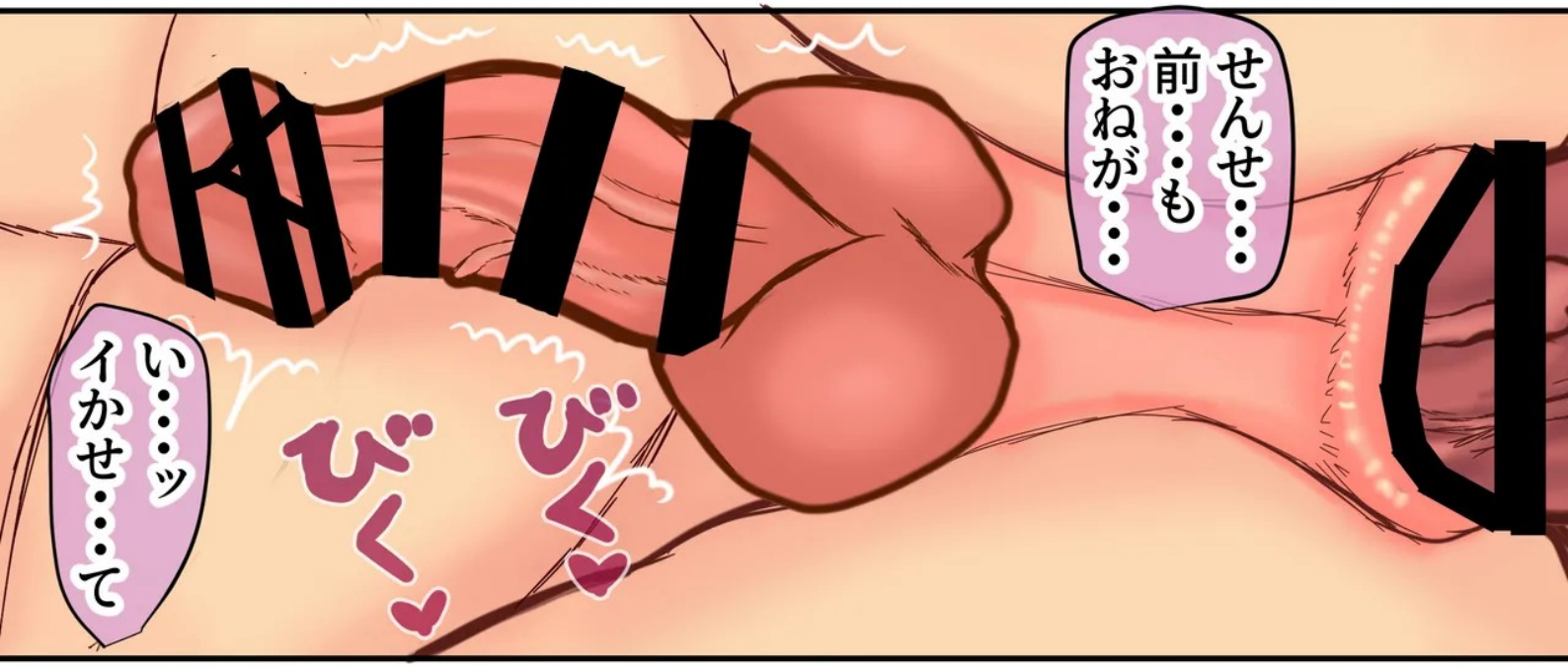

嘘だろ…ッ
ずりゅ
まさか…
びく


せ…せんせ…ッま…ッ
ずりゅ
そんな大きいのはいらな…ッ


ミチ♡
びくっ♡
いっ
ズ
ペチン
びくっ♡


な・・・
何これ・・・ッ
あ♥
さっきの
なんかよりも
圧迫される・・・・ッ
ひ♥
ミチ♥
中が・・・ッ
あつい・・・・ッ
ミチ♥
ずるるるる
キュン♥
キュン♥
いい・・・
締め付けですね
ドチュ♥
ドチュ♥
ナカ
おっ♥
ぞくぞく
お♥
だ・・・ダメだ・・・ッ
あぁ・・・
ココですか・・・
一条の弱点・・・


こんな酷い事…
されているのに…
なんで…俺…
ビクッ
あ♡
あ♡
ビクッ
気持ち良く
なってるんだ…


せんせ…
前…も
おねが…
びくっ
びくっ
い…ッ
イかせ…て


一度イき方を
教えただろう?
はあ
ぞくぞく
しゅる
マンコだけで
イきなさい


せんせ…まって…ッ
おねが…ッ あっ♥
さぁこれで
私の形…動き…
突く時のスピード
一番イイところを
突かれる角度
ぞく♥
ぞく♥
見えないと
余計に…ッ
パチュ♥
パチュ♥
プチン
ひぐ♥
あ♥
あ♥
キュン♥
キュン♥
パチュ♥
パチュ♥
奥の快楽全てに
集中して
どうイったか
思い出しなさい
おっ♥おっ♥おっ♥
びく♥
ドチュ♥
ダメだ…ッ
嫌でも
わからされる


与えられる
全ての快楽に
カラダが・・・ッ
バチュ♥
バチュ♥
バチュ♥
バチュ♥
バチュ♥
プッシッ♥
悦んでしまう♥♥♥
ガタン
おっ♥
おっ♥
お♥
ギッ
ギッ


そうです
いい子ですね
ハァー♥
いい子には
ご褒美です
ハァー♥
ずん♥


ねぇ…まっ…ッ
まってッ
ズブッ
いッいま…ッ
イっ…たからッ
とまっ～!
え…?
ドクン
嘘だ…
中に出されてる…ッ
ドピュ
プシャ
あぁ…


ぬぽん♥
ビクッ
は～～♥
は～～♥
さすが…
学習能力が高い
ご褒美の中出しで
潮の吹き方も
覚えるとは…
ドロ～
一条は本当に
優等生だな…


弱みを握られたあの日から俺は・・・・
フー♥
フー♥
びく♥
びく♥
ヴィ
ヴィ
ガク
ガク
ガク
ガク
一条・・・お前は雌奴隷だ・・・復唱・・・
・・・俺は・・・め・・・雌奴隷です・・・
欲しいモノは？
先生の・・お・・おちんぽ・・・です・・・
先生に呼び出され調教され続けた・・・

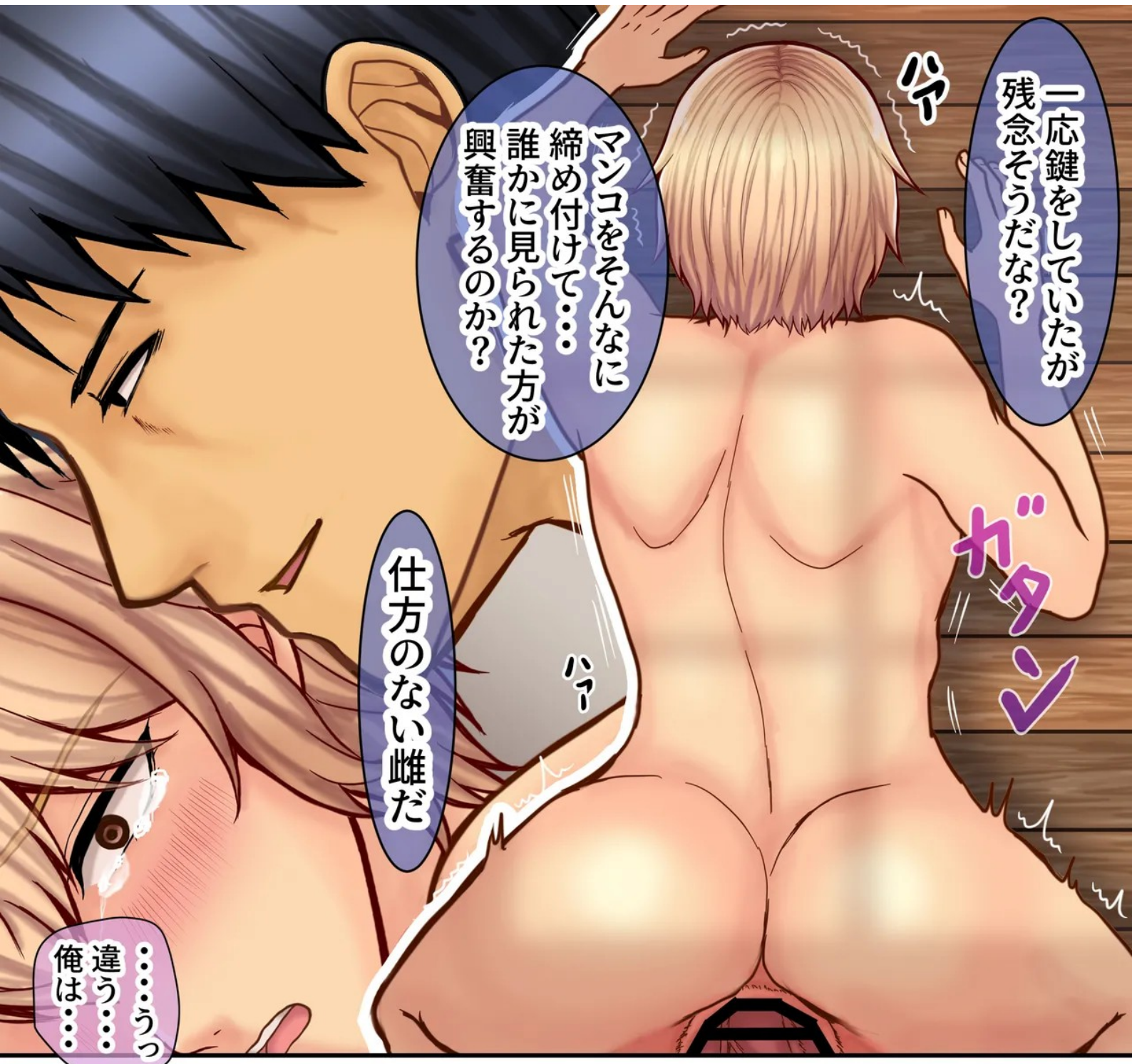

そして一か月後
言いなりになる事で
拘束はされなくなったけれど
卑猥な行為は続いていた
ん♥
ちゅる♥
る♥
る♥
にゅ♥
びく♥
プルーン
ぴゅ♥

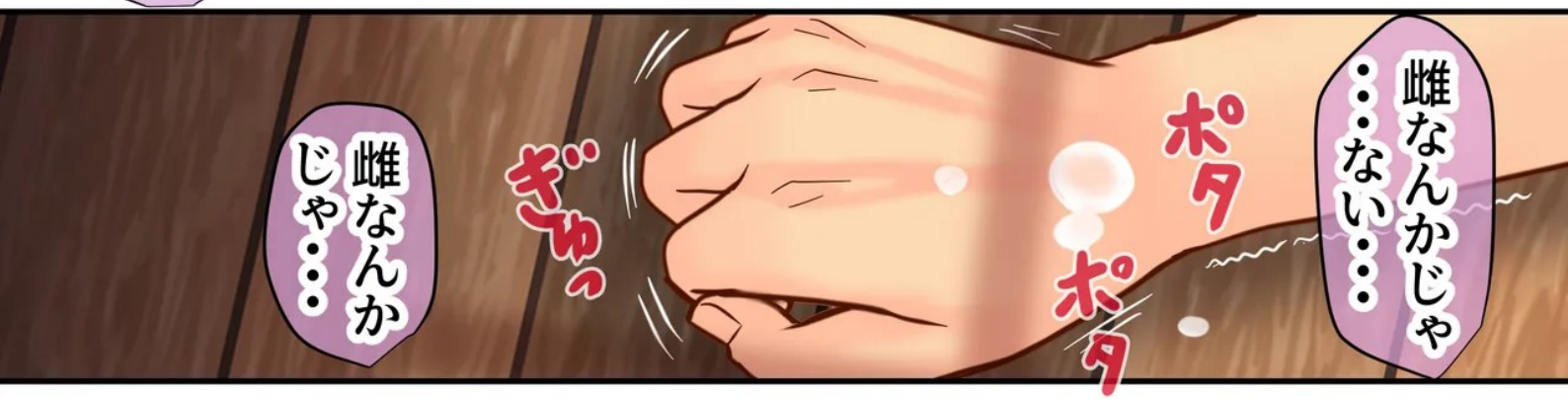

少し愛撫するだけで
こんなに乳首を勃たせて
随分エロい雌になった
ものだ…
誰のせいで…
ハァ～♥
他の男に媚びて
交尾でもして
いないか心配に
なる…
どうなんだ？
一条…
先生以外とこんな事
する訳ないのに…
くり
くり
くり

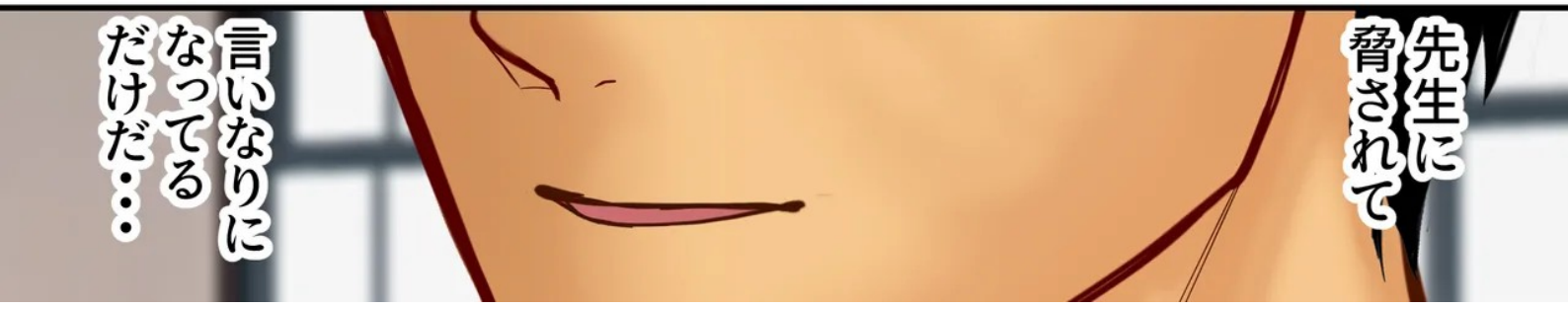

答えないと乳首も電マ調教・・・
せ・・・ッ先生以外としてないです
ぎゅ
まぁそうだよな？自分が何なのか優秀なお前ならわかっているものな
はい・・・
言ってみなさい
おっ・・・おれは先生の雌奴隷です
ズリズリ
決まって毎回恥ずかしい事を言わされて・・・言わないとお仕置きされるので大人しく従うしかなくて


オネダリは？
せんせいの・・・
専用お・・オマンコに
お・・・・おちんぽ挿れて
・・・ください・・・
良く出来ました
ビクン
おっ♥
プッシャア♥
ズン！
ガタンッ
コンコン


先生～
ビクッ
嘘だろ…
誰か来…ッ
こんな所
見られたら…ッ
あれ？
開かなくね？
先生いないんじゃ
ねーの？
でも今なんか
声聞こえた気が
したんだけどな
気のせいか
ムグッ
今日中にレポート
提出したかったのに
明日で
いいんじゃね？
だな…
帰るか…
んっ♡くっ♡
ズッ
ズッ
ゆさ♡
ゆさ♡
ズッ
ぐぷ♡
ズッ


一応鍵をしていたが残念そうだな？
ハァ
マンコをそんなに締め付けて…誰かに見られた方が興奮するのか？
ガタン
仕方のない雌だ
ハァー
…うっ違う…俺は…


雌なんかじゃ…ない…
ポタ
ポタ
ぎゅっ
雌なんかじゃ…


先生に脅されて
言いなりになってるだけだ…


あれから
先生の指示は
もっと過激になって
いった・・・
今日は一日ローター
つけて耐えたら
セックスは無しに
してくれる事になって
ウヴヴヴヴ
ビクッ
ブーン♥
音・・・バレないように
奥に挿れたのに・・・
振動で少しずつ降りてきて
弱い場所に振動が
きているのを感じる
カタカタ
ヤバい・・・
イきそう・・・
キーン
コーン
カーン
コー


故障中
使用禁止
まだ一限目が終わったところですが
パァ――ン
パァ――ン
パタン
もうこんなに雌の匂いを溢れさせて・・・
隣の席の子にバレなかったかね？
はぁ♡
びくっ♡
びくっ♡
せ・・・せんせい・・・これ・・・ローターとって・・・ください
先生専用
中出し希望
ヴヴヴ
ガクガク
仕方ありませんね


パン♥
あ♥
パン♥
パン♥
あ♥
パチュ♥
パチュ♥
パチュ♥
どうですか？
万引きしたローターよりも
気持ちいいですか？
あっ・・・ッ
・・・はい♥
何がどうきもち
いいのか
言いなさい
せ・・・ッ
せんせいの
おちんぽの方が・・・ッ
き・・・ッ
きもちいいです♥
万引きした
ローターよりも
先生のおちんぽの
方がきもちいいです♥
びくん♥
キュン♥
キュン♥
ずぷぷ♥
俺のカラダ
どうなってしまったんだ
無理矢理犯されてるのに
毎回イってしまう・・・ッ
もう・・・
万引きしない・・・ッ
しないから・・・ッ
ゆるして♥♥
ビク♥
あっ♥
イく♥
イひゃう♥
ビク♥


いい子だ…
一条…
ハァ～♥
中出しされながら
舌を優しく絡めとられる……ッ
ちゅ♥
ちゅく♥
ちゅるる♥
きもちよすぎて
何も考えられない……
びゅるるる


一条…
前だ…
鏡を見なさい
ピク
え…うそ？
これが俺…？
種付けしてもらったばかりの
雌穴をよく見てみなさい
まだ足らなそうにしているだろう？
先生専用
ヒク
中出し希望
ヒクヒク
鏡に映った俺は
信じられない身体つきになっていた
アナルはヒクヒクして
先生の言う通り子種を
オネダリしているように見えた


また挿れてあげますのでちゃんと見て理解するんですよこれが私専用のオマンコです
キュン♡
キュン♡
先生のおちんぽをあてがわれるだけでまるで待ち構えていたかのように俺の穴がきゅうきゅう吸い付いているのが見えた・・・
あ♡あ♡
いつもしている行為なのに先生の大きいおちんぽが俺の中に挿いっていくのを目で確認して
プッシャア♡
ずっぷ♡
すごい♡
これダメです♡
あ♡イく♡
俺はいつもよりも敏感に反応していた
先生専属ずっずっ♡
中出し希望
いくのッとまんねッ
イく♡


それからも毎日のように
先生に抱かれ・・・
言うことを聞かないと
お仕置きをされて・・・
おっおぉ♥
んひぃ♥
びく♥
びく♥
んぐ♥ん♥
ちゅ♥ちゅ♥
ちゅぷ♥
ちゅく♥
ふ〜〜♥
先生が満足するまで
中出しをされて・・・
トク♥トク♥
ひく♥ひく♥
優しく絡めとる
キスをされて・・・
先生専用の雌である事を
散々わからされた・・・


そんなある日・・・
せんせ・・・
・・・・え？
気のせい？
それから俺は
先生に
呼び出される
事はなくなった
俺が万引きを
しなくなったからなのか
先生が俺に飽きたからなのか
解らないけれど
これで良かったんだ・・・
こうして
ようやく俺に
日常が戻った・・・

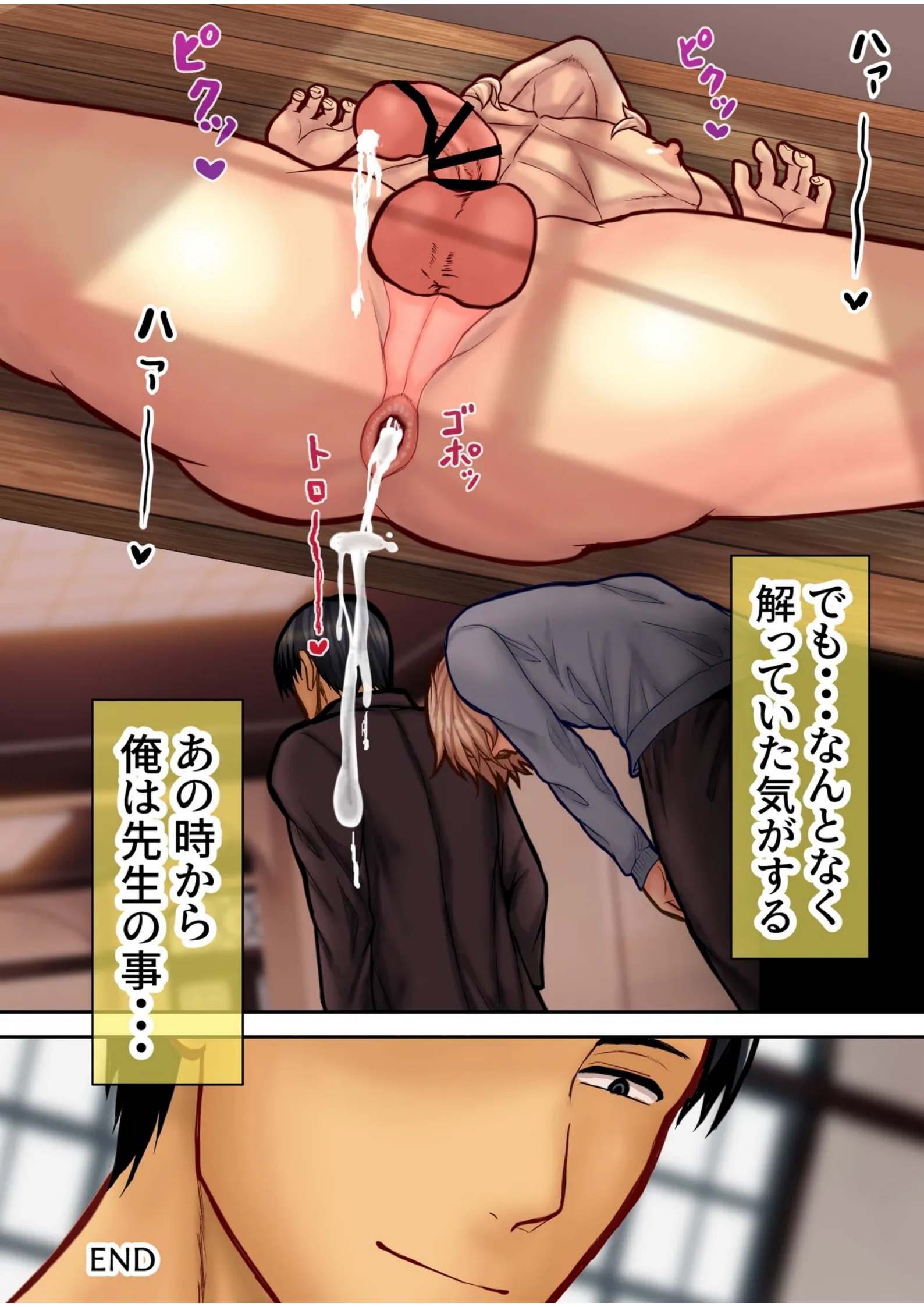

はずだった・・・
先生に呼ばれなくなってから一週間・・・・
ハァー
ハァー
足りない
もっと奥まで・・・
先生のので突かれた時の強烈な快感が欲しい
このまま先生に会わずにいた方がいい・・・
頭では理解しているのに・・・
せんせ〜ッ
せんせ〜
ハァー
ハァー


トン
ゼミ室
…先生…
トントン
ガチャ
遅かったな
一条…
待っていたぞ
ぬぎっ
自ら私に
抱かれにくるのをな
そうなんですか…
俺はてっきり
先生は俺に飽きたんだと
思ってました
まさか
それはない…
でしたら
先生専用の雌マンコ
使ってください…
ガタッ


あ♥
パチュ♥
あぁ♥これ♥これぇ♥
久しぶりの先生のおちんぽ♥♥
あ♥あ♥
パチュ♥
パチュ♥
先生の形も
大きさも全部
覚えてる♥
あ♥
パチュ♥
びくっ♥
せんせ～♥
すきぃ♥
パチュ♥
すきです♥
せんせ～♥
すきぃ♥


先生は俺の大好きなおちんぽで♥
俺の大好きなところを♥
大好きな角度で突いてくれて♥
それに応えようと俺は
久しぶりの交尾に興奮する
先生専用の雌になった♥
ドチュ♥
ドチュ♥
キュン♥
キュン♥
せんせぇ♥
出してぇッ♥♥
ドチュ♥


久しぶりの先生の精子・・・ッ
たっぷり注いでもらって改めてわからされる
俺はもう・・・先生なしじゃダメなんだ・・・
ぴゅるるる


ハァ〜ー♥
ピクッ♥
ピクッ♥
ハァ〜ー♥
ゴポッ
トロ〜ー♥
でも・・・なんとなく解っていた気がする
あの時から俺は先生の事・・・
END

おまけ

大滝高雄視点

※こちらの漫画は本編差分で構成されております



大学教師になってから
十年以上経っただろうか
色んな生徒を見てきたが
あれほどまでに心を
惹かれた生徒はいなかった

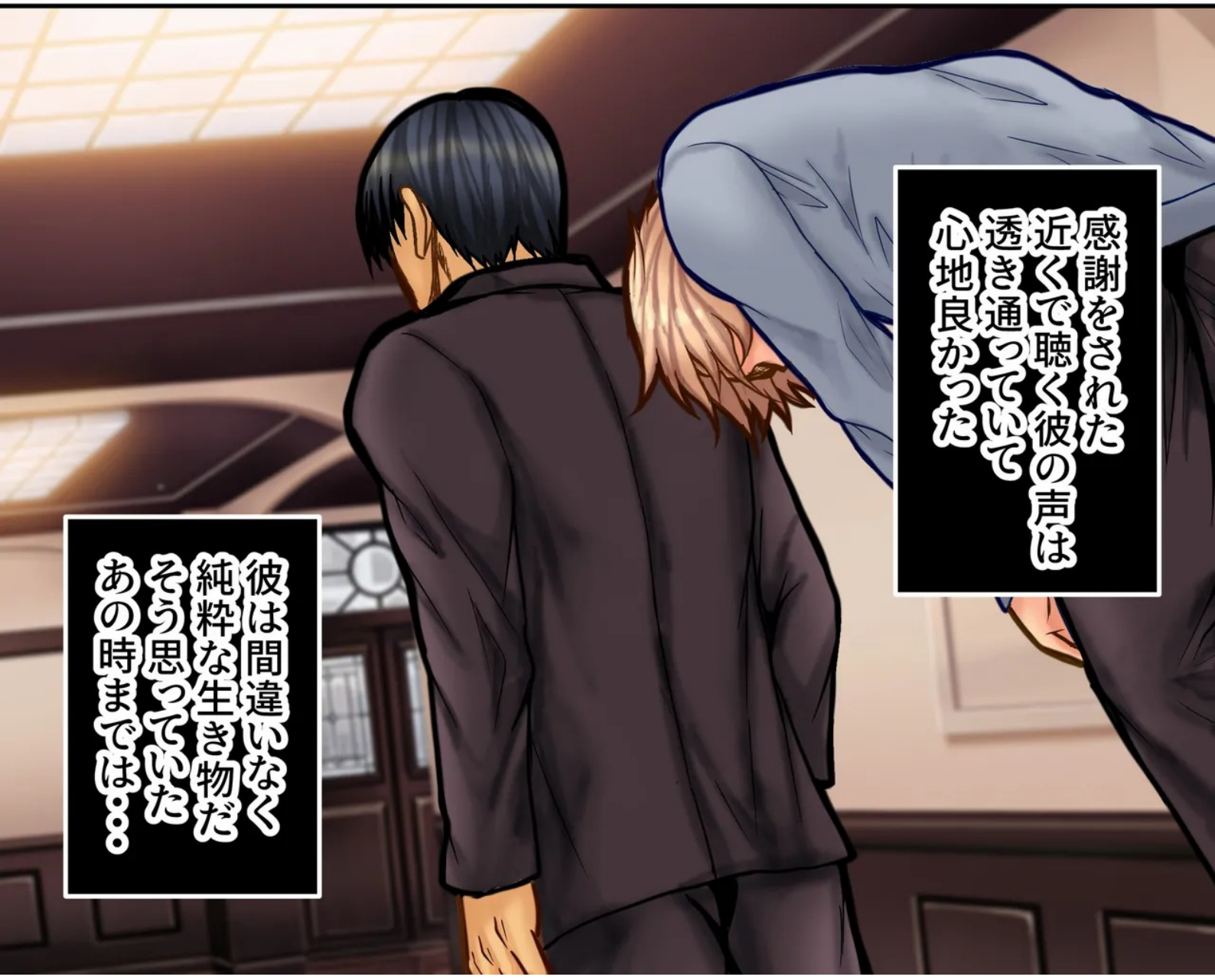


一条曹馬・・・
光を浴びて輝く黄金の髪
非の打ち所がない綺麗な容姿・・・
真面目で成績も良い

彼だけは他の生徒とは違う
天使の様に美しい存在だと思った

そんな彼に嫉妬し
疎ましく思う者も
いたようだが…

こんな美しい生き物を
咎めるとは
愚かな者共だ
私は当然追い払った



感謝をされた
近くで聴く彼の声は
透き通っていて
心地良かった

彼は間違いなく
純粋な生き物だ
そう思っていた
あの時までは…

彼に会った日は
つい目が追ってしまうし
ほんの出来心だった

その日私は
彼の後をつけたのだ
ストーカーという
最低な行為を
行わせてしまうのも
彼の魅力がそれほどまでに
強いからだろう…

そして見てしまったのだ
彼の汚点を…

その時勝手に描いていた彼への
敬意が失われた

そして本当に勝手だが
裏切られた気分だった

天使だと思っていた
美しき生き物は
間違いなく人なのだと
実感した瞬間でもあった





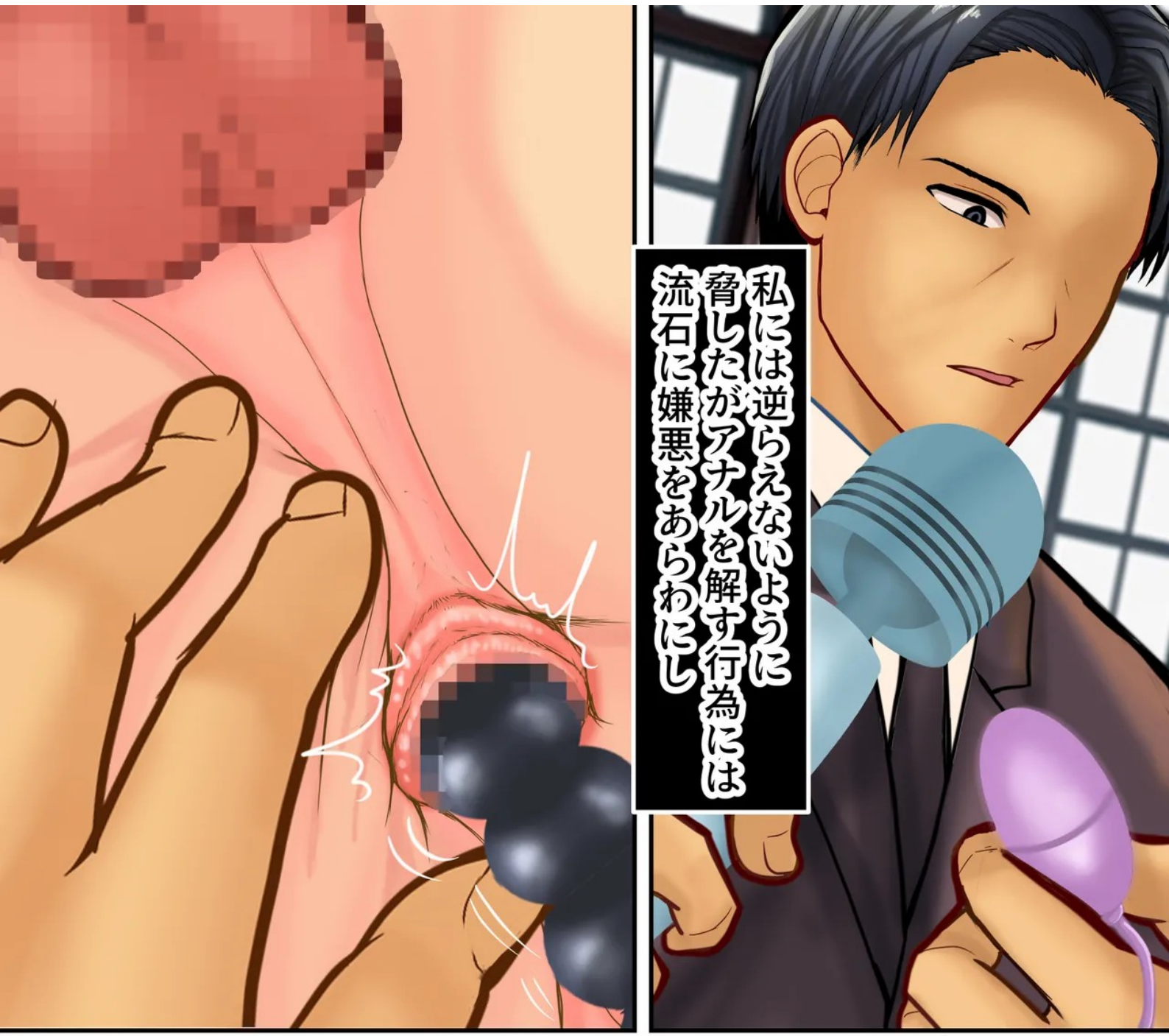
そして
彼の弱みを握った時
ずっと眺めるだけだった
存在に容易に触れる事が
出来る高揚感もこみ上げた

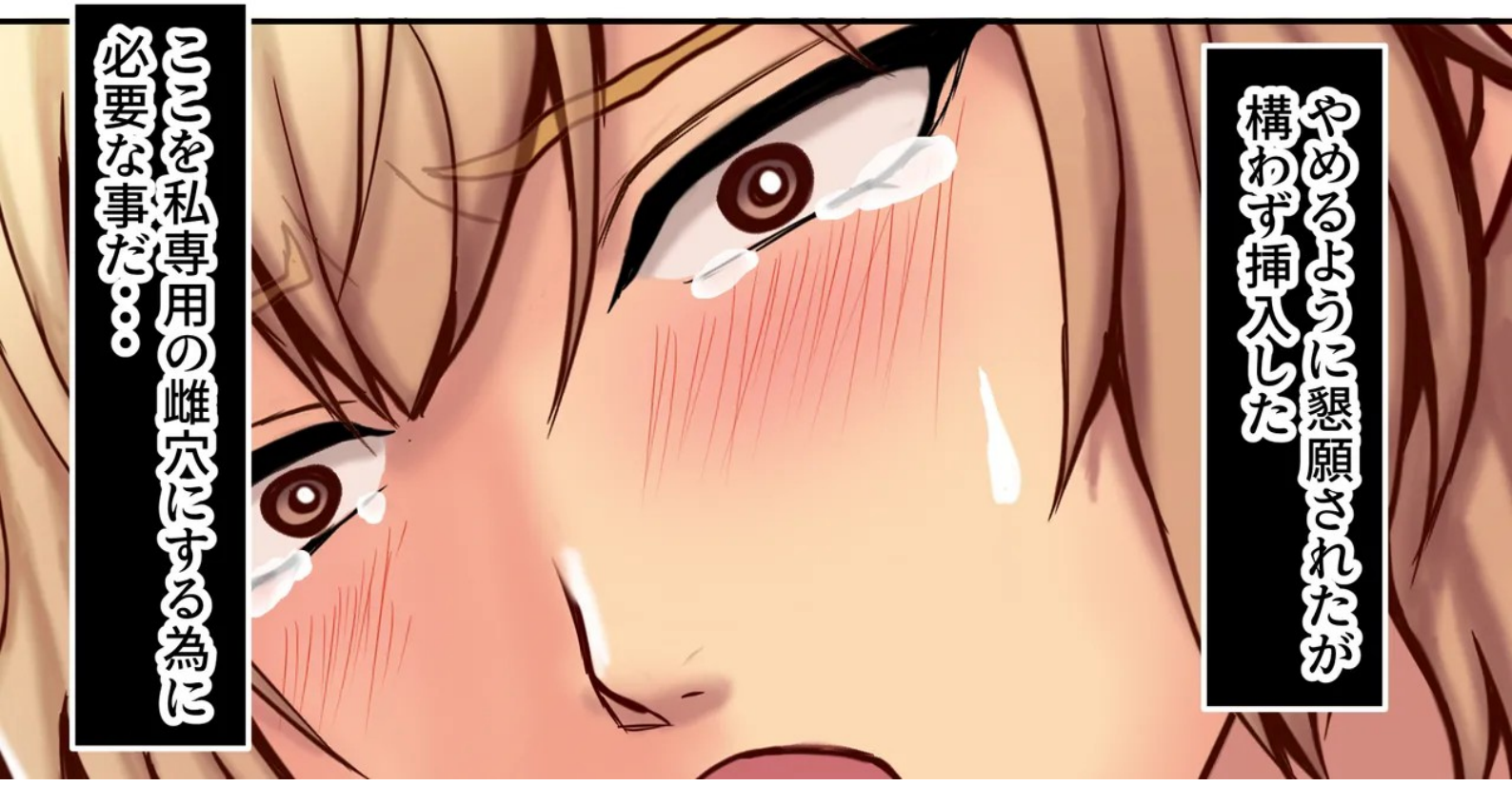

大
いけない子には
お仕置きをしなくては
ならない・・・
私を裏切った罰を
受けるべきだと自分本位な事を
あの時の私は考えていた


彼の身体が小刻みに震え
嫌悪感をあらわにしていたが
構う事なく彼を脅した…
これから行う目的の為には
必要な事だ

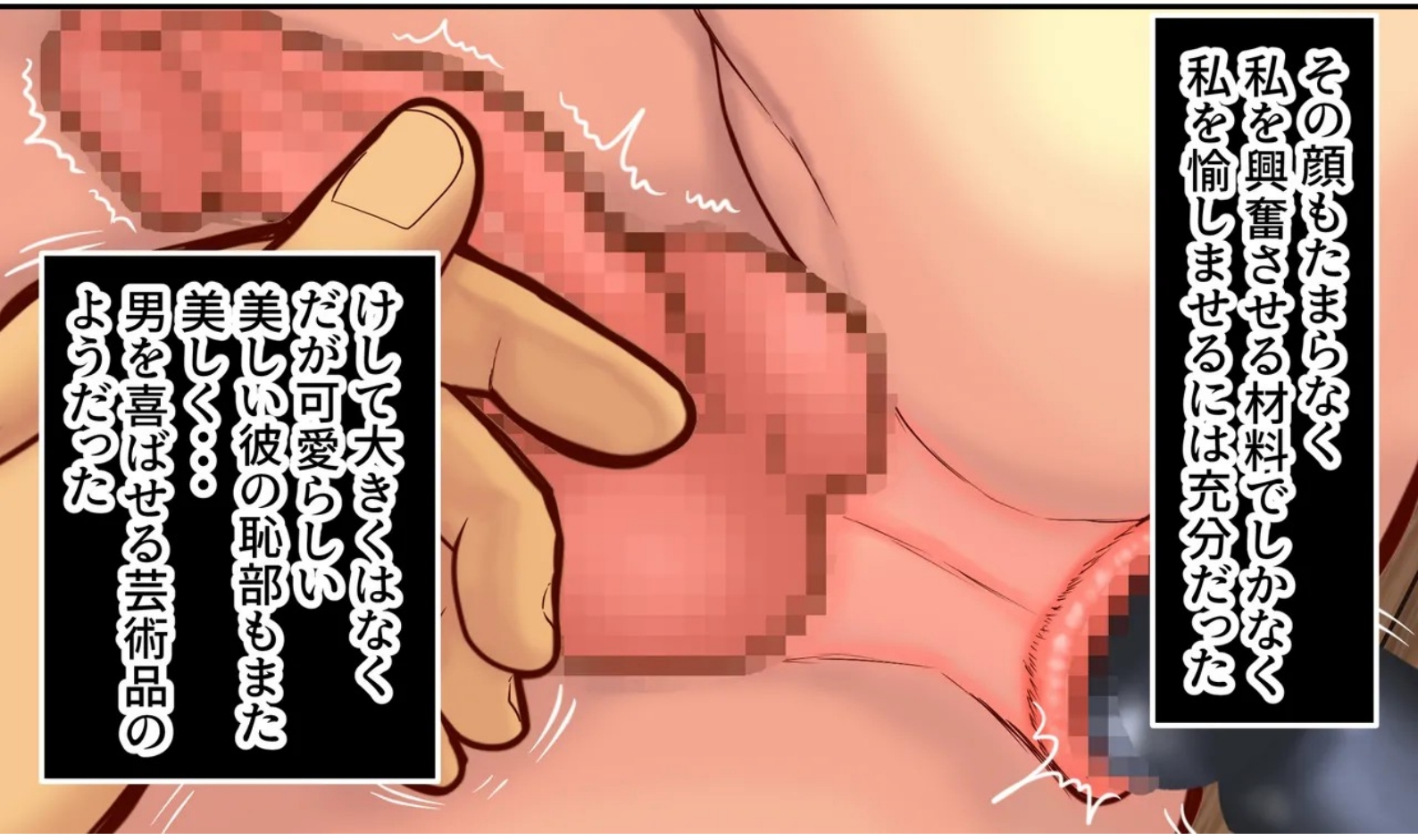

その時の私は…
あれほど神格化していた彼を
これから私の手で手に入れる事が
出来ると思うと
高揚していたのは確かだ…。


私への完全なる屈服を植え付ける為
裸で拘束し無防備にする
今は穢れのない綺麗な裸体…
彼のこんな姿を見れるのは
私だけだ…なにしろ
これから私の手で汚してゆくのだ
こんな理不尽な事をされ
少し悪態をつかれたが
それすらも可愛いと思えた


私には逆らえないように
脅したがアナルを解す行為には
流石に嫌悪をあらわにし

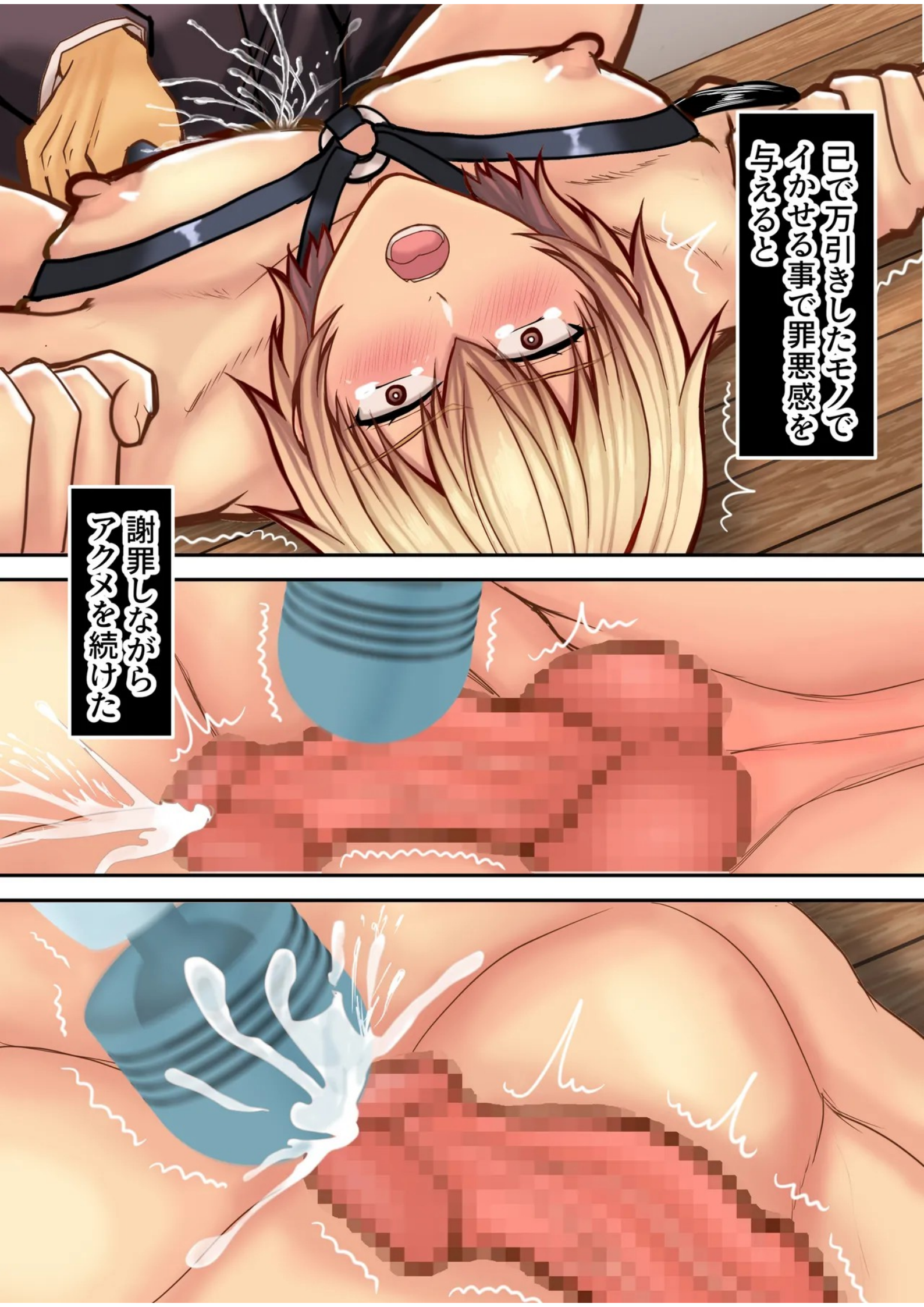

やめるように懇願されたが
構わず挿入した
ここを私専用の雌穴にする為に
必要な事だ…


想像もしていなかっただろう
こんな事をされ
彼の顔が絶望の色で染まり


その顔もたまらなく
私を興奮させる材料でしかなく
私を愉しませるには充分だった
けして大きくはなく
だが可愛らしい
美しい彼の恥部もまた
美しく…
男を喜ばせる芸術品の
ようだった


美しい彼の恥部を
優しく擦って
射精を促す…
これから育成する
雌穴でイく癖を
付ける為だ
触れられた違和感で彼は
ペニスへ神経を集中させている
その間もアナルへの刺激は
微量ながら続ける…

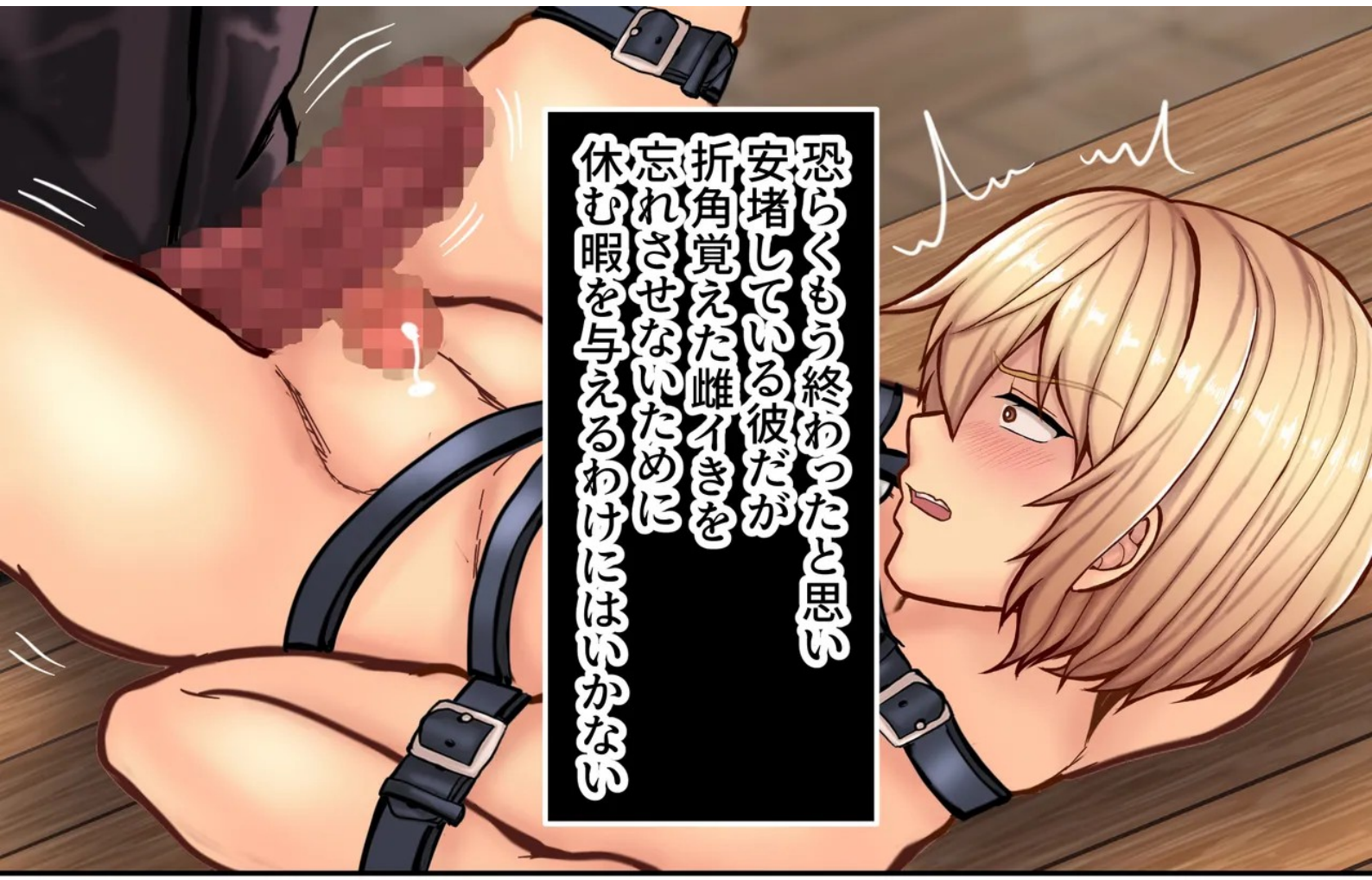

生理的に本能で精子が玉にあがってきたところで電マにより強制的に射精させる
いっやぁ
めぇめぇめぇ
彼は甘い悲鳴を上げながら美しくイった…

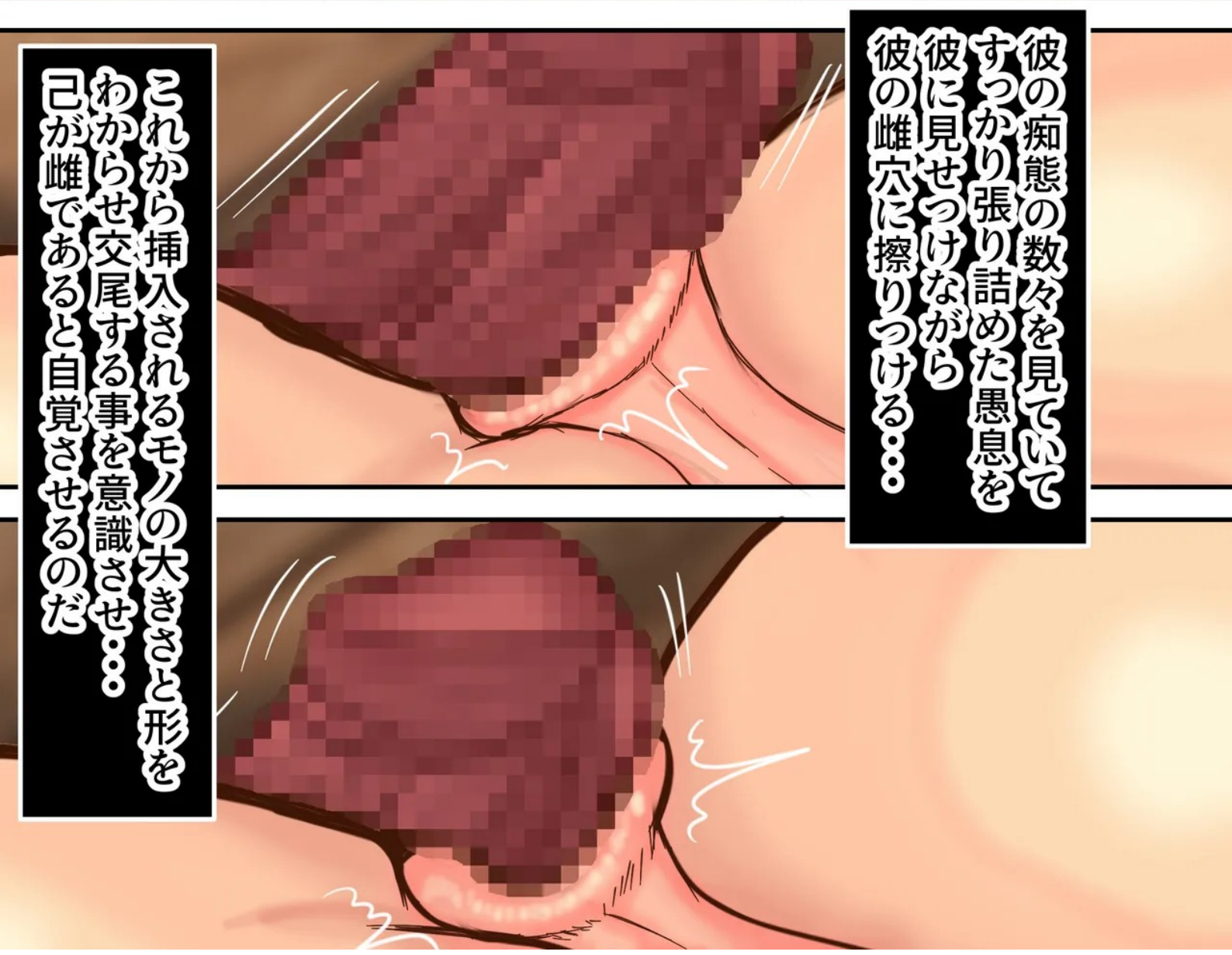

己で万引きしたモノで
イかせる事で罪悪感を
与えると
謝罪しながら
アクメを続けた


イくのに必死になっている彼は
美しく…いつまでも眺めていられそうだ
アナルにしか刺激を与えず
もう電マを当てない事を
教えてやった時の戸惑いの顔も
素晴らしい…


アナルでイった感覚を
わからせる事で
そこはもう雌穴になったのだと
理解させる
キスをする事で
私専用の雌である事を
刷り込む…


雌穴に挿入していたモノを
抜いてやると彼は安堵した表情で
ぐったりとしていた
その姿は
絶対に勝てる事のない
強い生物の前で交尾を待つ
か弱い生物のようで
愛おしく感じた

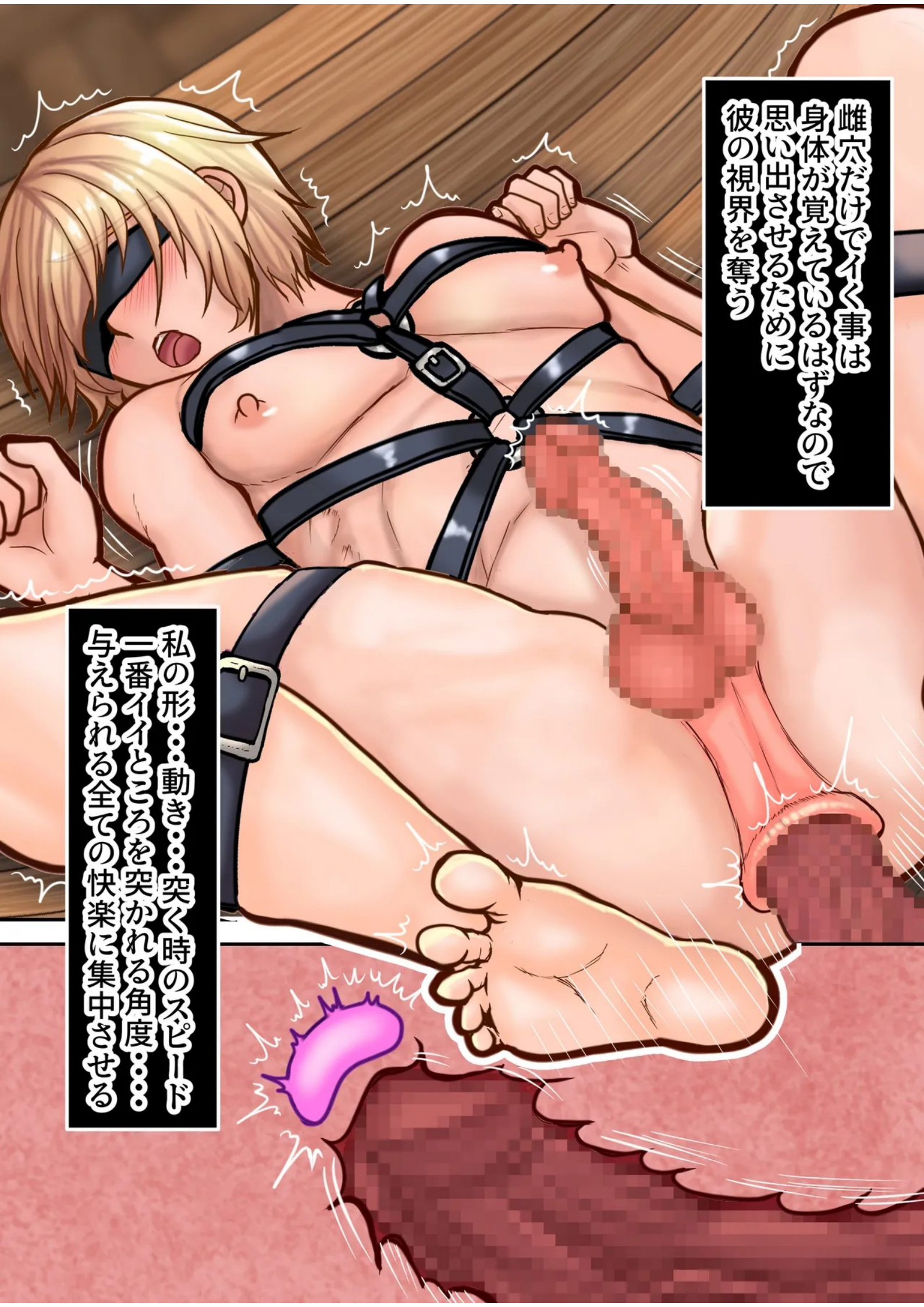

恐らくもう終わったと思い
安堵している彼だが
折角覚えた雌イきを
忘れさせないために
休む暇を与えるわけにはいかない


彼の痴態の数々を見ていて
すっかり張り詰めた愚息を
彼に見せつけながら
彼の雌穴に擦りつける…
これから挿入されるモノの大きさと形を
わからせ交尾する事を意識させ…
己が雌であると自覚させるのだ


かつて天使だと思っていた彼の
処女を己の手で消失した瞬間…
高揚感で酔いしれた
彼の温もりが伝わり
中はとても心地が良かった…
解していたもののまだキツイ
だがヒダは吸い付きが良かった


彼の中はキツク
私を締め付け
うっかり
射精しそうになる
元からの素質なのか
ヒダの吸い付きも良く
男を悦ばせる
極上の雌穴だった
彼の弱点である
前立腺を把握し
重点的に突き
ここは交尾する為の穴だと
わからせてやる

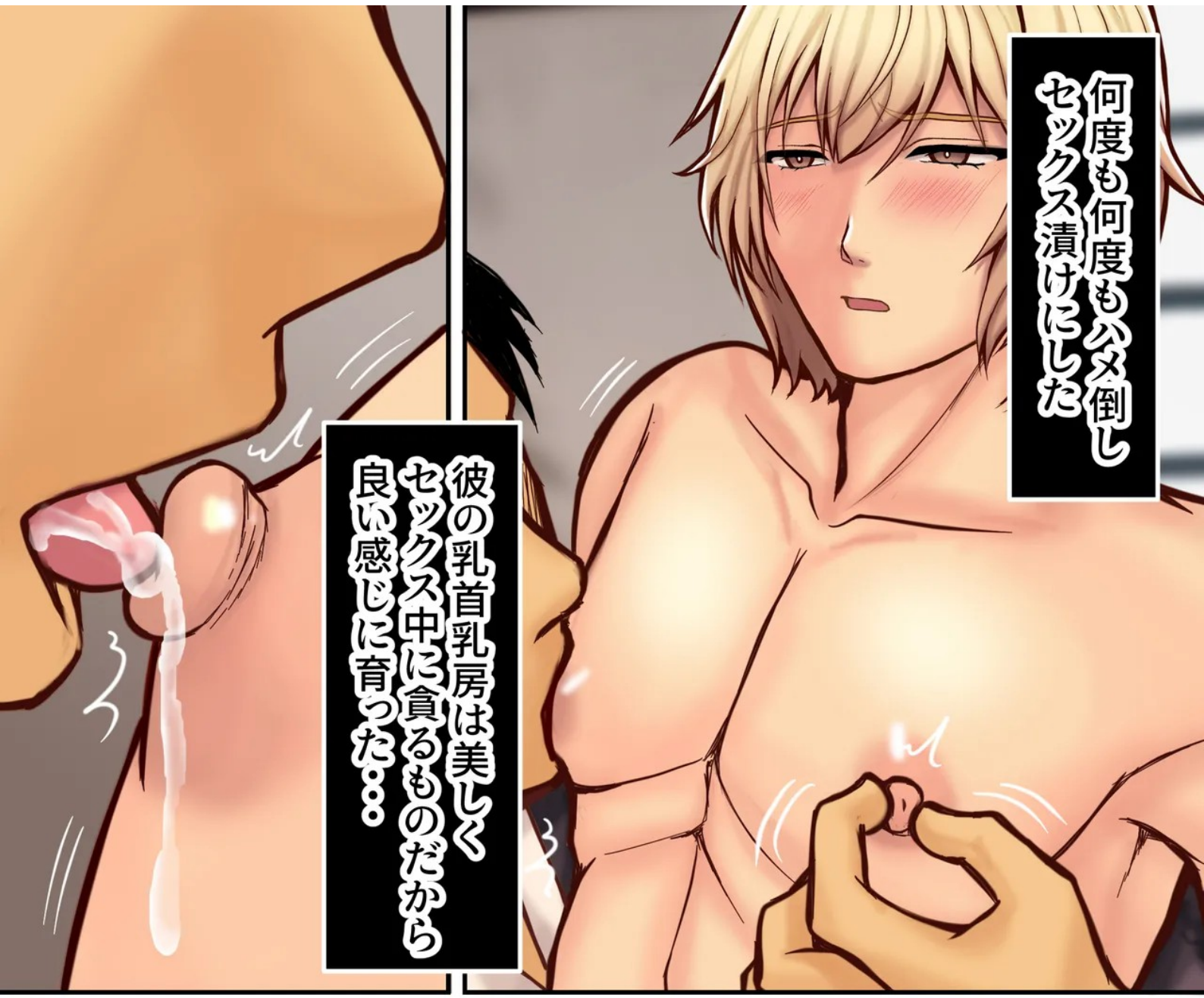

イけそうで
イけないのが
たまらなかったのか
ちんこを擦って欲しいと
懇願されたが…
先ほど教えたばかりだ
雌穴だけで
イくように命じた
ここで甘やかしても
良かったが
学習能力に長けている
優秀な彼なら
出来るはずだ…

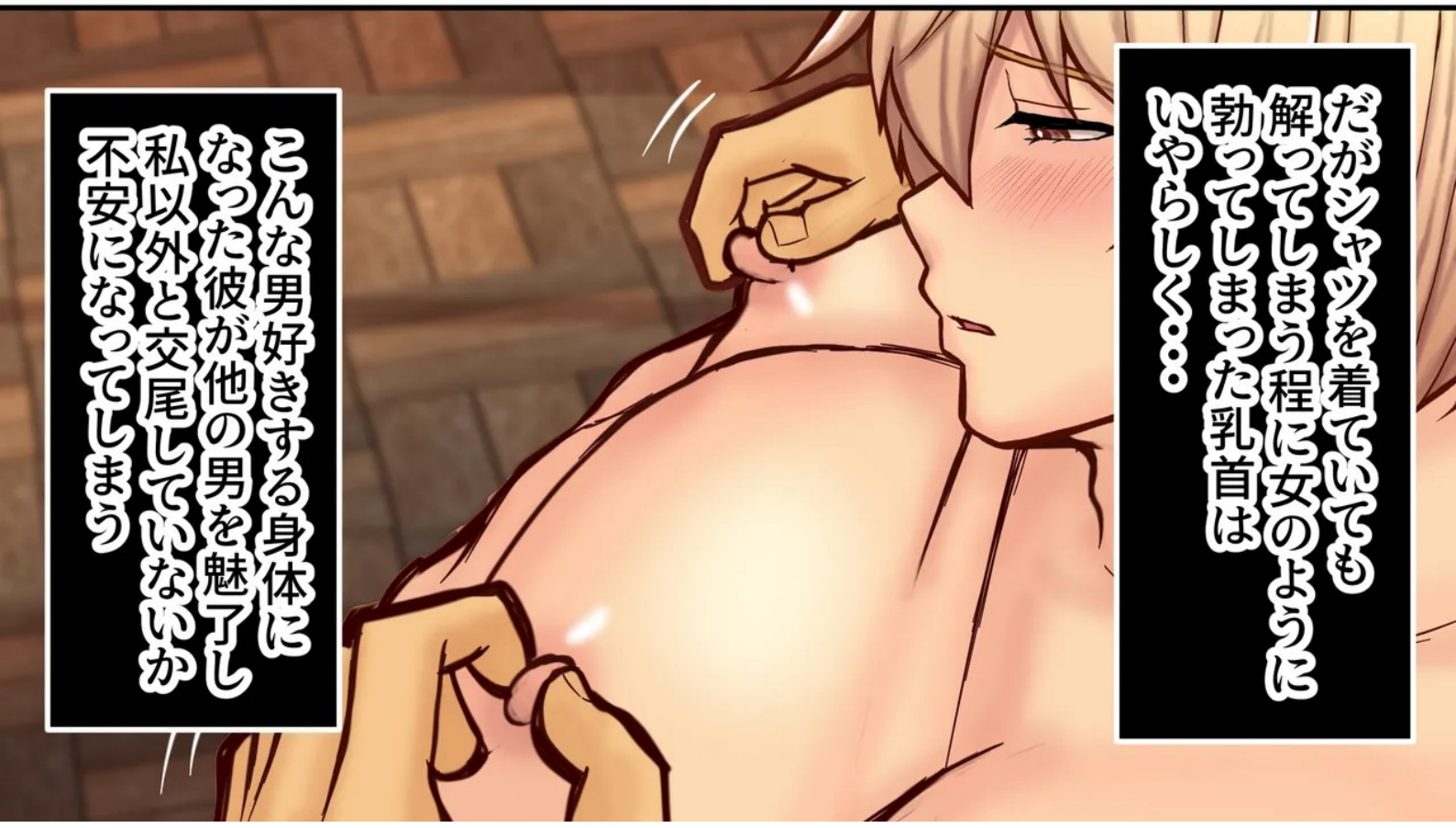

雌穴だけでイく事は
身体が覚えているはずなので
思い出させるために
彼の視界を奪う
私の形…動き…突く時のスピード
一番イイところを突かれる角度…
与えられる全ての快楽に集中させる


そしてオマンコでイく事を覚えた優等生の
雌穴には中出しのご褒美を与えた

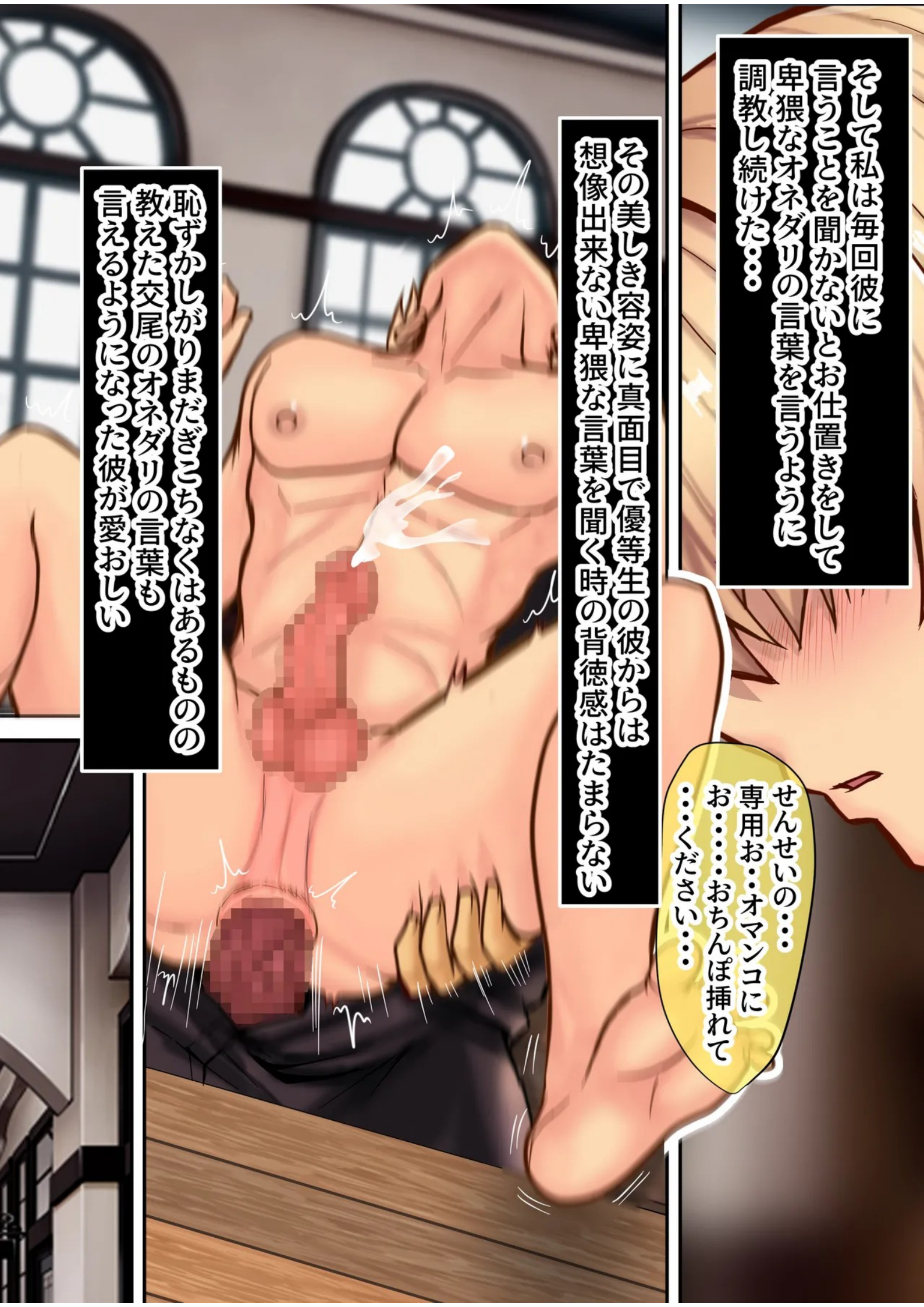

普段真面目な優等生の彼にとって
これら新鮮で極上の快楽を味わったら
ハマり溺れるだろう…


それから…
彼への調教を続けた
美しい彼が
快楽に従順になり
堕ちるまで…


何度も何度もハメ倒し
セックス漬けにした
彼の乳首乳房は美しく
セックス中に貪るものだから
良い感じに育った…


だがシャツを着ていても
解ってしまう程に女のように
勃ってしまった乳首は
いやらしく…
こんな男好きする身体に
なった彼が他の男を魅了し
私以外と交尾していないか
不安になってしまう


私以外とするとは思えないが
念のため私以外と交尾をしない様に
脅しておいた


そして私は毎回彼に
言うことを聞かないとお仕置きをして
卑猥なオネダリの言葉を言うように
調教し続けた・・・
せんせいの・・・
専用お・・オマンコに
お・・・・おちんぽ挿れて
・・・ください・・・
その美しき容姿に真面目で優等生の彼からは
想像出来ない卑猥な言葉を聞く時の背徳感はたまらない
恥ずかしがりまだぎこちなくはあるものの
教えた交尾のオネダリの言葉も
言えるようになった彼が愛おしい



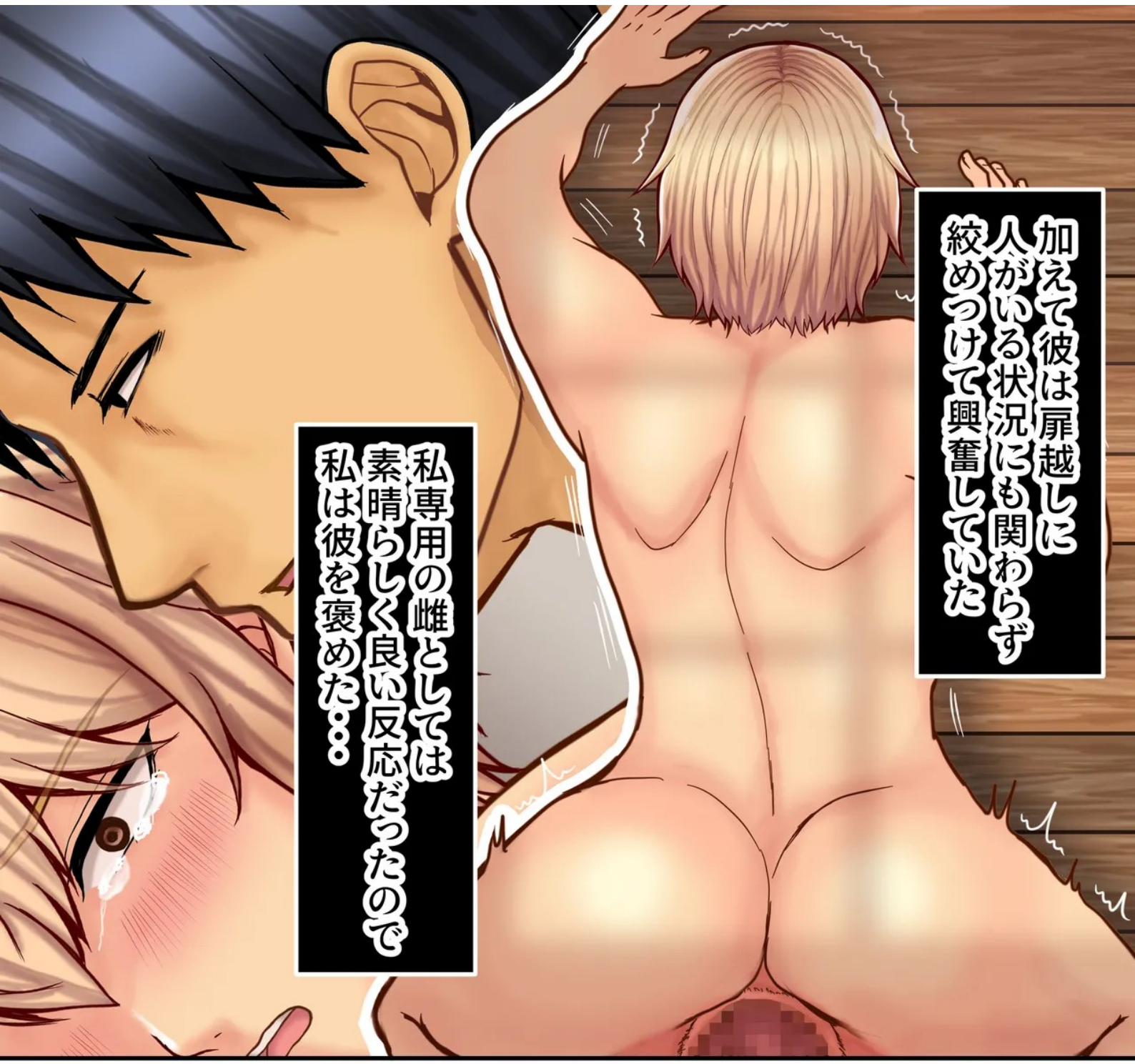
そして私は時たま
彼の本性を試すのだ
己が雌であることを
認めさせる為に…

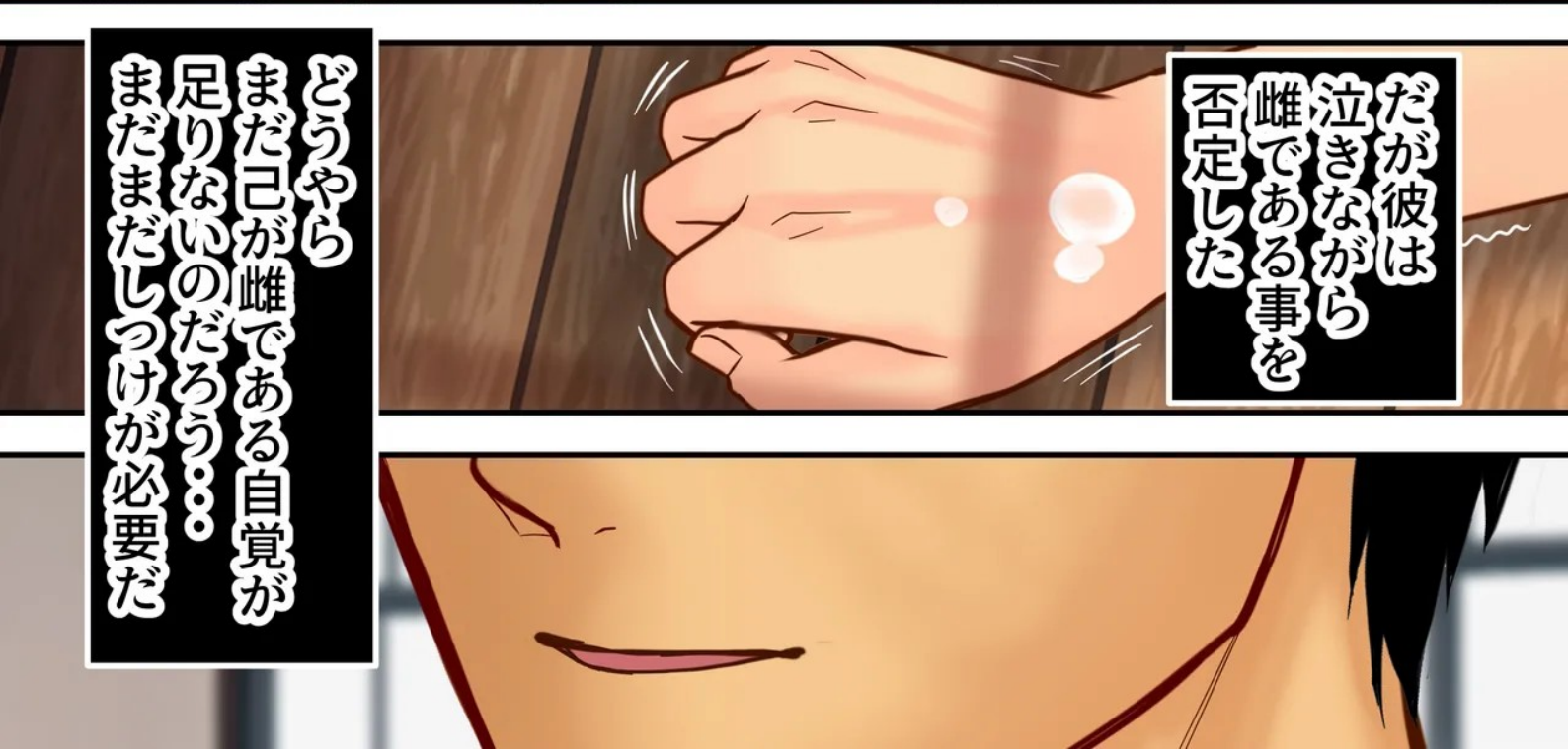
今日は
私と交尾中の雌でしかない
己が誰かに見られてしまう
かもしれない…
そんなシチュエーションだ
予め生徒にレポート提出を
するように言っておいて



鍵をかけてあるから
大丈夫だが
彼からしたら相当
焦っただろう

その間突くのは止めず動かし続け
彼の弱点を優しく突き続ける
甘い声が出そうになるのを
必死に堪える彼は愛おしかった

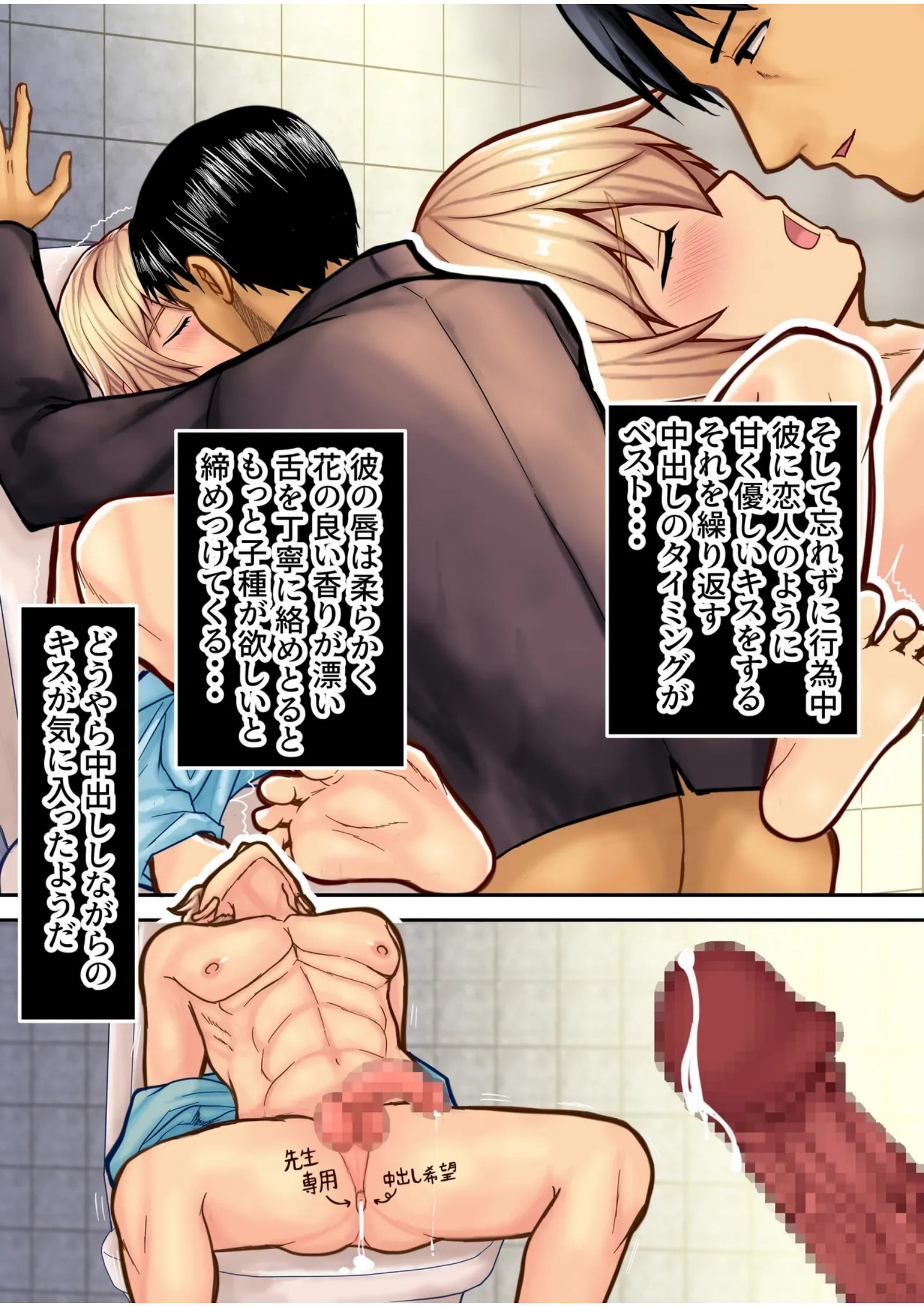

加えて彼は扉越しに
人がいる状況にも関わらず
絞めつけて興奮していた
私専用の雌としては
素晴らしく良い反応だったので
私は彼を褒めた…


だが彼は
泣きながら
雌である事を
否定した
どうやら
まだ己が雌である自覚が
足りないのだろう…
まだまだしつけが必要だ


この日はローターを
挿れた状態で一日過ごし
耐える事が出来たら
セックスはしないと
約束していたが・・・
耐える事が
出来るはずもない
ローターを挿れる時に奥に挿れないと
振動音がバレて周りに気が付かれると
指摘しておいたから奥へ挿れたに違いない
奥に挿れたローターは振動で
下へと少しずつずれ
前立腺を刺激するのに
そう時間は掛からないだろう・・・


故障中
使用禁止
案の定二限目の終わりにギブアップ…
浮気防止で風呂に入るまではとれないペンで彼の太ももに描いた落書きも相まって精液肉便所のような姿なのにそれでも美しい彼に興奮する……
先生専用
中出し希望


万引きしたローターよりも
私のおちんぽの方が
気持ちいいと再度
刷り込む・・・
どうせ万引きをする事は
もうないだろうが
何よりも私のおちんぽでイく癖を
つけるのが重要なのだ


そして忘れずに行為中
彼に恋人のように
甘く優しいキスをする
それを繰り返す
中出しのタイミングが
ベスト・・・
彼の唇は柔らかく
花の良い香りが漂い
舌を丁寧に絡めとると
もっと子種が欲しいと
締めつけてくる・・・
どうやら中出ししながらの
キスが気に入ったようだ
先生専用
中出し希望


そして身体は
すっかり雌に目覚めている
その事を自覚させる為
鏡の前で
私専用の雌である
己の姿を見せつけた
先生
専用
中出し希望
T

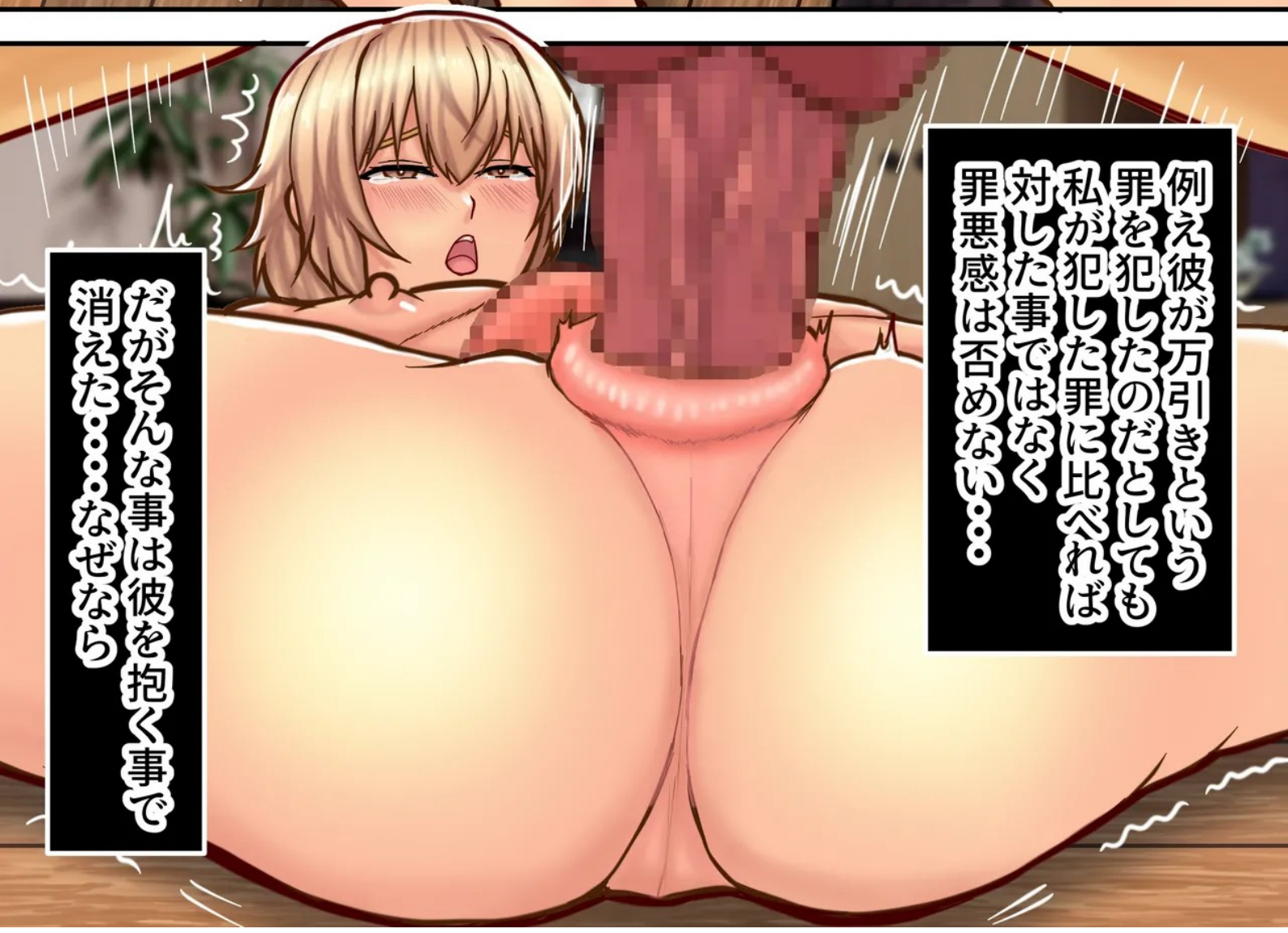

専用
中出し希望
更に雌として私を受け入れる
その瞬間をちゃんと
見せる為にゆっくりと挿入する
自分の姿に
いつもよりも興奮したのか
締めつけてくるのがたまらない
中出し希望


それからも毎日のように
彼を教育した
逆らえば快楽漬けの
お仕置きをした
整った顔が快楽に歪み
許しを請う姿も
また美しい…
卑猥なオネダリの
言葉もしっかりと覚えて
最近は自ら言えるようになった
ご褒美に彼の好きな中出し
しながらのキスをして
毎日
雌堕ち調教した彼を
堪能した

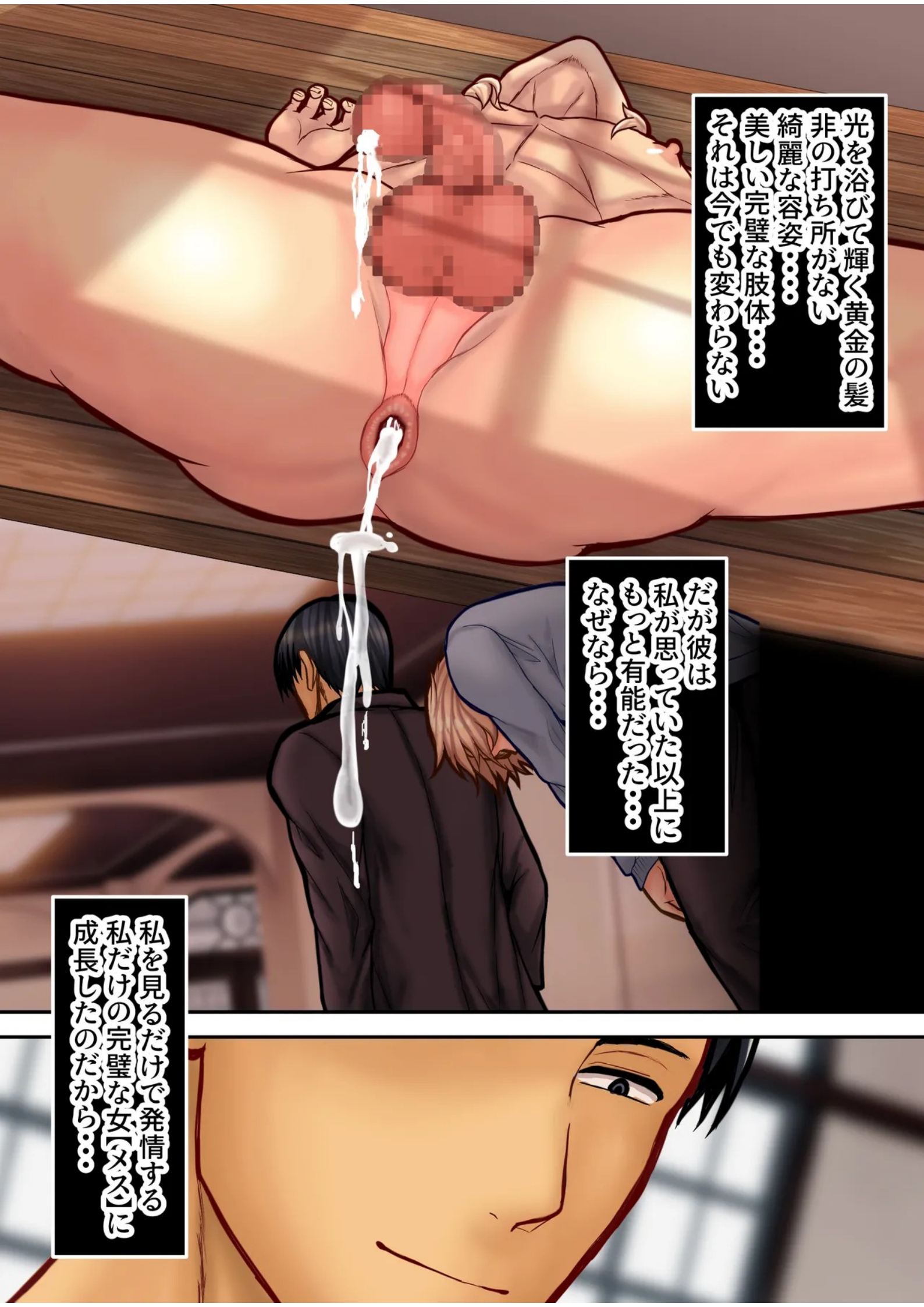

そしてこれが最終試験だ
わざと彼を放置する
雌になりきった身体が疼き自ら抱かれにくるまで
優秀な彼ならきっとこの最終試験も合格できるだろう


ゼミ室
そして一週間後…
彼は私の所へ来た…
あのかつて見るだけで
満足していた天使は
こうして私の手によって堕ちた


触れてはいけない天使を
堕落させてしまったのは
間違いなく私だ…


例え彼が万引きという
罪を犯したのだとしても
私が犯した罪に比べれば
対した事ではなく
罪悪感は否めない…
だがそんな事は彼を抱く事で
消えた…なぜなら


一週間も
持て余していた彼の身体は
溶ける様に私に吸い付き
馴染んだからだ
心も身体も全て
私のモノになった彼で
私の心は背徳感で
満たされていった


光を浴びて輝く黄金の髪
非の打ち所がない
綺麗な容姿…
美しい完璧な肢体…
それは今でも変わらない
だが彼は
私が思っていた以上に
もっと有能だった…
なぜなら…
私を見るだけで発情する
私だけの完璧な女【メス】に
成長したのだから…


2025年7月7日
りゅういんじ / エルドラド工房
◇pixiv ID=10283879
◆Fantia https://fantia.jp/fanclubs/137160
◆Ci-en https://ci-en.dlsite.com/creator/8758
◆FAN BOX https://ryuuinji.fanbox.cc/
Eldorado WorkShop books No.56
先生専用
正正正T
中出し希望
お読みいただき、ありがとうございました。